

教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価

( 平成24年度対象 )

報告書

平成25年8月

大分市教育委員会

# 目次

## はじめに

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての 点検及び評価の実施について	1
2 報告書の見方	2
3 大分市総合計画と大分市教育ビジョンとの関係	4

## 第Ⅰ章 教育委員会の点検・評価

1 教育委員会の活動及び運営状況	
(1) 教育委員会委員	5
(2) 教育委員会会議の開催状況	5
(3) 教育委員会会議での審議状況	5
(4) その他活動状況	9
2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果	
重要施策の体系	1 2
(1) 豊かな人間性の創造	
幼児期における教育の充実	1 3
学校教育の充実	1 6
社会教育の推進と生涯学習の振興	2 1
青少年の健全育成	2 4
(2) 人権を尊重する社会づくりの推進	2 6
(3) 個性豊かな文化の創造と発信	2 8
(4) スポーツ・レクリエーションの振興	3 2
(5) 本市教育を推進する教育委員会の充実	3 5
3 平成24年度 教育部長の仕事宣言達成状況	3 7

## 第Ⅱ章 学識経験者による意見

金子 進之助	別府大学短期大学部学長	4 3
村嶋 幸代	大分県立看護科学大学学長	4 4
山崎 清男	国立大学法人大分大学理事・副学長	4 5

## はじめに

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正がなされ（平成20年4月施行）、各教育委員会において、法の規定に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

大分市教育委員会では、平成20年5月に本市教育行政の方向や施策を明らかにする「大分市教育ビジョン」を策定し、学校、家庭、地域社会が連携し、一体となった教育の推進を図っています。平成23年度に、前年度までの事業の進捗状況、国や県の動向、社会情勢を踏まえ、具体的な施策や指標等の見直しを行い、第Ⅱ期基本計画を策定しました。

また、「教育部長の仕事宣言」として、「大分市教育ビジョン」の進捗状況等を踏まえ、年度ごとの重点事業を明らかにし、各施策を展開しています。

こうした取組の実施に当たっては、市民の皆様は、その進捗状況を公表する中で、各々の施策が確実に実施されているか、どのような成果があるかなどを点検・評価することにより、教育行政の改善を図るとともに、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することが重要であると考えています。

そこで、本市教育委員会では、「大分市教育ビジョン」の取組状況と本年度から計画のⅡ期を機に新たに加えた「教育部長の仕事宣言」の達成状況により、「教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価」とし、ここに報告書をまとめました。

## 1 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施について

### (1) 目的

大分市教育委員会が行う教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を実施することにより、教育行政の改善を図る。

点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを大分市議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

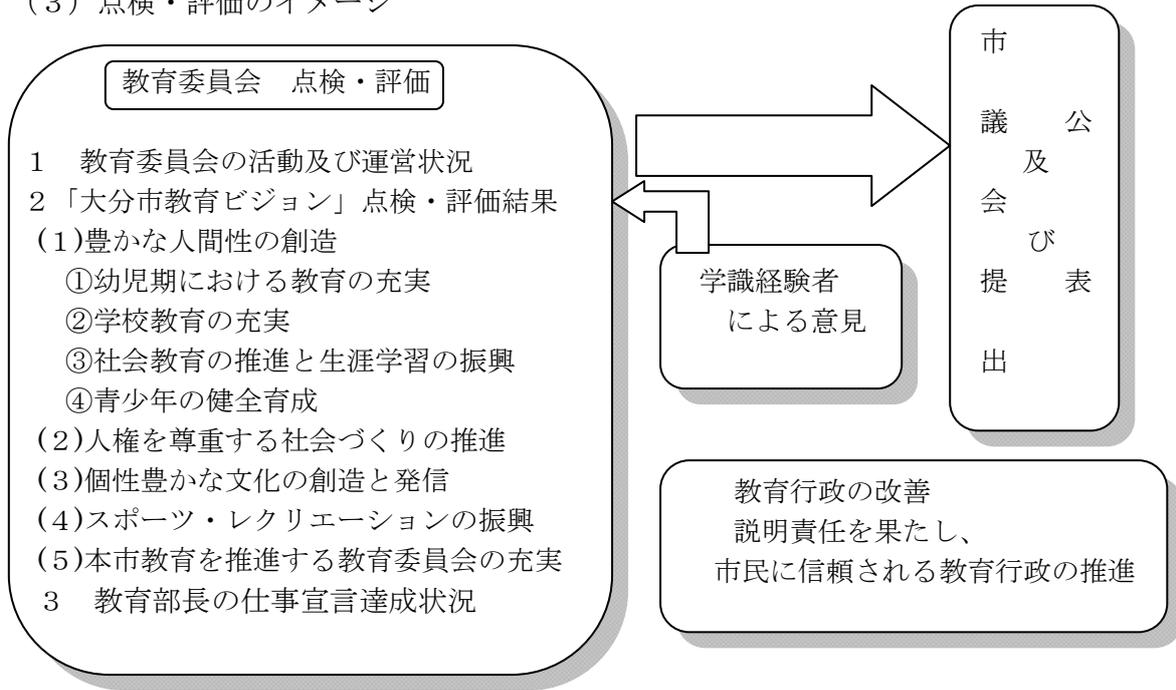
### (2) 実施方法

点検・評価は、教育委員会の活動及び運営状況並びに「大分市教育ビジョン」に示す施策を対象とする。

点検・評価を行うに当たり、客観性及び透明性を高めるため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る。

教育委員会は、点検・評価の結果を取りまとめた報告書を作成し、大分市議会に提出するものとする。また報告書は公表する。

(3) 点検・評価のイメージ



## 2 報告書の見方

本報告書は、次の2つの内容（第Ⅰ章・第Ⅱ章）から構成しています。

### 第Ⅰ章 教育委員会の点検・評価

#### 1 教育委員会の活動及び運営状況

教育委員会会議の開催状況、教育委員会会議での審議状況、その他活動状況等について記載しています。

#### 2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果

重点施策について、以下の項目立てから点検及び評価をしています。

##### 【1】目標

##### 【2】取組の進捗状況

「重点施策」の実現に向けて展開している「具体的な施策」について、「24年度実績」「24年度の進捗状況」を記述するとともに、A～Dの4段階評価を行っています。また、具体的施策のまとめりに「成果と課題」、「今後の取組の方向性」を記述しています。

##### <評価基準>

A・・・28年度指標達成に向け、計画どおり順調に進んでいる。

(指標達成は、可能、または、指標達成をした)

B・・・28年度指標達成に向け、概ね計画どおり進んでいる。

(指標達成は、ほぼ可能である)

C・・・28年度指標達成に向け、計画がやや遅れている。

(指標達成は、難しく改善策が必要である)

D・・・28年度指標達成に向け、計画が大幅に遅れている。

(指標達成は、極めて困難であり、計画の見直しが必要である)

事業を終了した施策については、終了後の評価は行わない。(評価の欄は斜線)

<成果や課題（成果● 課題▲）>

成果を●で、課題を▲で表記しています。

<今後の取組の方向性及び改善策>

成果や課題を踏まえ、次年度以降の取組の方向性と改善策を記述しています。

【3】参考

各施策についての市民の声やアンケート結果などを記載しています。

3 平成24年度 教育部長の仕事宣言達成状況

「教育部長の仕事宣言」とは、1年間に取り組む「防災教育の推進」や「あいさつ OITA+1 運動の全市展開」などの重点事業を明らかにするとともに可能な限り目標を数値化し、それをやり遂げることを教育部長が市長と市民に約束するという、いわば教育部長のマニフェストです。

単年度で達成することを目標にしており、現状を踏まえて、より高い目標設定となっています。

第Ⅱ章 学識経験者による意見

点検・評価の客観性及び透明性を高めるとともに、知見を活用するため、教育に関し学識経験を有する方の意見等を聴取しました。

ご意見等をいただいた方々は、次のとおりです。

(50音順 敬称略)

氏 名	所 属 等
金子 進之助	別府大学短期大学部学長
村嶋 幸代	大分県立看護科学大学学長
山崎 清男	国立大学法人大分大学理事・副学長

参考 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

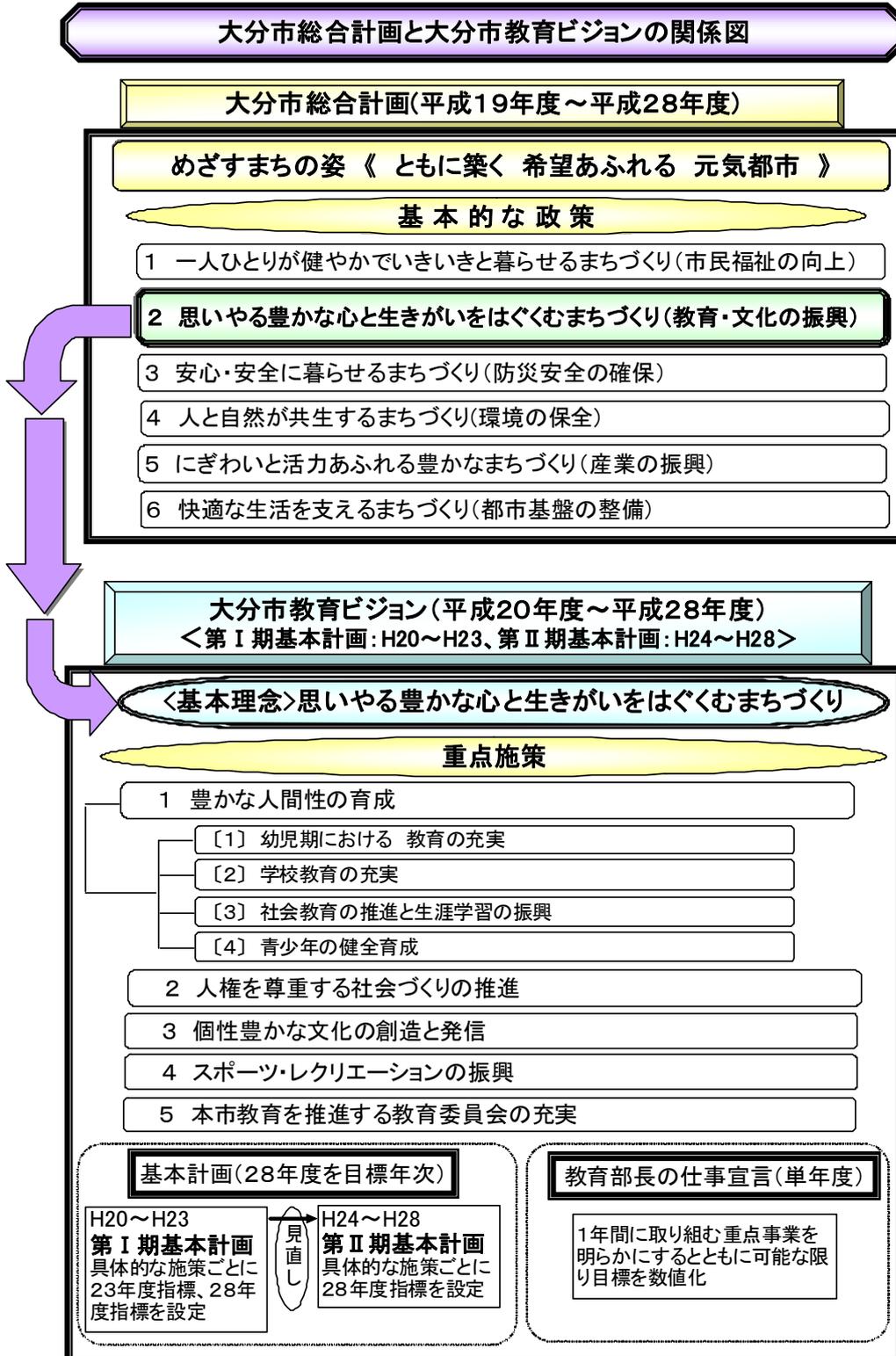
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本市教育委員会では、「大分市教育ビジョン」の年度ごとの進捗状況の評価も兼ねて、毎年度、本報告書を作成しております。

### 3 大分市総合計画と大分市教育ビジョンとの関係

「大分市教育ビジョン」は、本市の最上位計画である「大分市総合計画（平成 19 年度～平成 28 年度）」の基本理念を受け、『ともに築く 希望あふれる 元気都市』の実現を教育の分野からめざすものとして位置付けられています。

大分市総合計画と大分市教育ビジョンとの関係は以下のようなイメージです。



## 第 I 章 教育委員会の点検・評価

### 1 教育委員会の活動及び運営状況

## 1 教育委員会の活動及び運営状況

本市教育委員会は、策定した「大分市教育ビジョン」の基本理念の実現に向け、明日の大分を担う人材育成と郷土の豊かな伝統・文化を推進し、本市教育の振興に努めています。

各教育委員については、毎月の定例会議や臨時会議のほか、先進地視察や事務局と連携しながら最新の教育情報等に関する研修会への参加、学習会の開催、学校訪問、施設の視察、さらに校長との教育懇談会を開催するなどして自己研修・情報収集を行う中で、幅広い視点からの議論並びに積極的な活動を次のとおり行ってきました。

### (1) 教育委員会委員

(H25.3.31 現在)

職名	氏名	就任年月日	委員現任期
委員長	高橋 英子	H19.5.8	H22.6.28～H26.6.27
委員長職務代理者	角山 光邦	H19.12.17	H21.7.8～H25.7.7
委員	小林 達也	H20.3.26	H24.7.9～H28.7.8
委員	大久保 真理子	H23.5.14	H23.5.14～H27.5.13
教育長	足立 一馬	H19.5.14	H23.5.14～H27.5.13

### (2) 教育委員会会議の開催状況

原則として毎月1回の「定例会」、必要に応じて「臨時会」を開催します。

平成24年度は、合計で22回開催しました。

教育委員会定例会議・・・12回

教育委員会臨時会議・・・10回

### (3) 教育委員会会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条及び「大分市教育委員会所管事務委任規則」の規定に基づき、平成24年度は合計で87件について審議を行いました。

教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針・・・・・・・・・・ 5件  
事務局職員及び教職員の人事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21件  
教育委員会規則の制定又は改廃・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17件  
教科用図書の採択・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件

- ⑤ 奨学生の選定・・・・・・・・・・・・・・・・・・3件
- ⑥ 法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱・・・・・・・・16件
- ⑦ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価・・・1件
- ⑧ 予算その他議会の議決を経るべき議案に対する意見申出・・・・17件
- ⑨ その他教育に係る事務・・・・・・・・・・・・・・・・・・6件

平成24年度教育委員会審議案件等一覧(分類欄は、上記の分類によるものです。)

番号	件名	提出日	分類
1	大分市文化財保護審議会委員の委嘱について	4月26日	⑥
2	大分市美術館協議会委員の委嘱及び任命について	4月26日	⑥
3	県費負担教職員の処分について	4月26日	②
4	公有財産の所管換等について	4月26日	⑨
5	大分市スポーツ推進委員の委嘱について	4月26日	⑥
6	大分市学校医等公務災害補償認定委員会委員の任命について	4月26日	⑥
7	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	4月26日	⑥
8	大分市民図書館協議会委員の委嘱及び任命について	4月26日	⑥
9	大分市公民館長の任命について	5月10日	②
10	大分市奨学生選考委員会委員の委嘱及び任命について	5月10日	⑥
11	平成24年度大分市奨学生の決定について	5月31日	⑤
12	平成24年度6月補正予算について	5月31日	⑧
13	大分市立幼稚園条例の一部改正について	5月31日	⑧
14	大分市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	5月31日	③
15	大分市社会教育委員の委嘱について	5月31日	⑥
16	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	5月31日	⑥
17	大分市立少年自然の家条例の一部改正について	5月31日	⑧
18	平成23年度補正予算(平成24年3月30日付市長専決処分)について	5月31日	⑧
19	大分市公民館運営審議会委員の委嘱について	5月31日	⑥
20	平成24年度行政評価・実施計画について	6月28日	①
21	大分市奨学生選考委員会委員の委嘱について	6月28日	⑥
22	公有財産の所管換について	6月28日	⑨
23	平成24年度大分市緊急採用奨学生の決定について	7月26日	⑤
24	県費負担教職員の処分の内申について	7月26日	②
25	県費負担教職員の処分について	7月26日	②
26	大分市教育委員会公印規則の一部改正について	7月26日	③
27	平成25年度使用教科用図書の採択について	7月26日	④
28	大分市立春日町小学校調理場厨房備品の購入について	7月26日	⑧
29	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	7月26日	⑥

番号	件名	提出日	分類
30	教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について	8月8日	⑦
31	教育委員会職員の人事異動について	8月17日	②
32	県費負担教職員の人事異動の内申について	8月17日	②
33	教育委員会事務局職員の処分について	8月29日	②
34	平成24年度9月補正予算について	8月29日	⑧
35	平成23年度決算について	8月29日	⑧
36	公有財産の所管換等について	8月29日	⑨
37	大分市立幼稚園規則の一部改正について	9月18日	③
38	公有財産の所管換等について	9月28日	⑨
39	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	10月31日	⑥
40	県費負担教職員の処分の内申について	11月14日	②
41	県費負担教職員の処分について	11月14日	②
42	平成25年度当初予算要求について	11月28日	①
43	平成25年度大分市立学校の休校について	11月28日	①
44	平成24年度県費負担教職員の人事評価について	11月28日	②
45	平成24年度12月補正予算について	11月28日	⑧
46	大分市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	11月28日	③
47	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	11月28日	⑥
48	ホルトホール大分大分市民図書館備品の購入について	11月28日	⑧
49	大分市歴史資料館条例の一部改正について	11月28日	⑧
50	大分市営温水プールに係る指定管理予定者の決定について	11月28日	⑧
51	アートプラザに係る指定管理予定者の決定について	11月28日	⑧
52	県費負担教職員の処分について	12月19日	②
53	県費負担教職員の処分の内申について	12月19日	②
54	県費負担教職員の処分について	12月19日	②
55	大分市立学校職員の通勤手当の支給に関する規則の一部改正について	12月26日	③
56	平成25年3月末教職員定期異動方針について	12月26日	①
57	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	12月26日	⑥
58	公有財産の所管換等について	12月26日	⑨
59	大分市教育委員会事務局職員の処分について	1月30日	②
60	「平成25年度大分市学校教育指導方針」について	1月30日	①
61	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	1月30日	⑥
62	県費負担教職員の処分の内申について	2月5日	②
63	平成24年度3月補正予算について	2月27日	⑧

番号	件名	提出日	分類
64	平成25年度当初予算について	2月27日	⑧
65	大分市関崎海星館管理規則の廃止について	2月27日	③
66	平成25年度大石奨学生及び大分市高等学校修学支援奨学生の決定について	2月27日	⑤
67	大分市公民館長の任命について	2月27日	②
68	大分市立学校職員の給与に関する条例の一部改正について	2月27日	⑧
69	県費負担教職員の人事異動の内申について	2月27日	②
70	大分市立幼稚園条例の一部改正について	2月27日	⑧
71	ホルトホール大分大分市民図書館図書の購入について	2月27日	⑧
72	大分市立少年自然の家条例施行規則の一部改正について	2月27日	③
73	県費負担教職員の人事異動の内申について	3月12日	②
74	大分市立幼稚園規則の一部改正について	3月12日	③
75	教育委員会職員の人事異動について	3月26日	②
76	大分市立学校管理規則の一部改正について	3月26日	③
77	公有財産の所管換について	3月26日	⑨
78	大分市立温水プール管理条例施行規則の一部改正について	3月26日	③
79	大分市歴史資料館条例施行規則の一部改正について	3月26日	③
80	教育長の処分について	3月27日	②
81	教育委員会事務局職員の処分について	3月27日	②
82	大分市教育委員会所管事務委任規則等の一部改正について	3月28日	③
83	大分市教育委員会事務局組織規則の一部改正について	3月28日	③
84	職員の初任給、昇格、昇給等の基準に関する規則の一部改正について	3月28日	③
85	大分市立学校職員の住居手当の支給に関する規則の一部改正について	3月28日	③
86	南大分体育館管理規則の一部改正について	3月28日	③
87	大分市歴史資料館管理規則の一部改正について	3月28日	③

※審議案件の他、協議事項及び報告事項についても取り扱いました。

協議事項・・・1件

件名	件数
教育委員会委員長の選任について	1件

報告事項・・・80件

報告内容	件数
市議会関係について	18件
小中学校適正配置計画について	9件
幼稚園教育について	3件
教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について	2件
武漢市学校交流事業について	2件
その他	46件

(4) その他活動状況

教育委員は、教育委員会会議に出席するほか、協議会の開催、研修会の参加、学校訪問、教育施設の視察、行事等への参加等の活動を行っています。

① 研修会等・・・5回

概 要	時 期
平成24年度大分県市町村教育委員会連合会研修会(県教委と共催)	5月
第1回学習会(小中学校適正配置計画について)	6月
第2回学習会(小中学校適正配置計画について)	7月
第3回学習会(幼保小連携推進会議について)	8月
第4回学習会(大分市学校管理規則の改正について)	1月

② 懇談会等・・・5回

概 要		時 期
市長との意見交換会	目的	8月
	内容	
教育懇談会	目的	第1回 6月 第2回 10月 第3回 11月 第4回 1月
	内容	

<市長との懇談会の様子>



<教育懇談会の様子>



③ 学校訪問・・・5校(園)

概 要		時 期
大在幼稚園 大在小学校 大在中学校 鶴崎小学校 鶴崎中学校	目的	1月
	内容	

学校現場の実態・実情を把握するため、授業参観や学校長との意見交換等を行った。

大在中学校区および鶴崎中学校区は、今年度より大規模校の小中一貫教育モデル校に指定されており、その取り組み状況を把握するとともに、鶴崎小学校では、北校舎の改築に伴い一時利用教室を使用している状況の確認を行った。さらに、それぞれの授業の様子を視察し、校(園)長と意見交換を行った。大在地区、鶴崎地区それぞれの地域の事情や、それぞれの学校(園)が抱える課題や学校経営の実情に関する情報を共有することができた。

<大在幼稚園での視察の様子>



<大在小学校での視察の様子>



<大在中学校での視察の様子>



<鶴崎小学校での視察の様子>



<鶴崎中学校での視察の様子>



④ 学校訪問(教育委員個別活動)

概 要		時 期
小学校29校 中学校15校	目的	随時
	内容	

教育委員が自主的に学校を訪問することにより、学校現場の課題等を把握するとともに、他の教育委員に情報提供する。

訪問した学校の子どもの様子、教育課題、学力・体力の状況、家庭・保護者の状況、特別支援教育の状況、不登校の状況、教職員の状況等について聞き取った記録をまとめ、教育委員会終了後等に報告した。

⑤ 先進地視察・・・2市(4箇所)

概 要		時 期
高崎市教育センター 高崎市立北小学校 横浜市教育委員会 横浜市立四季の森小学校	目的	11月
	内容	

視察の様子

<高崎市教育委員会>



<横浜市教育委員会>



<横浜市立四季の森小学校>



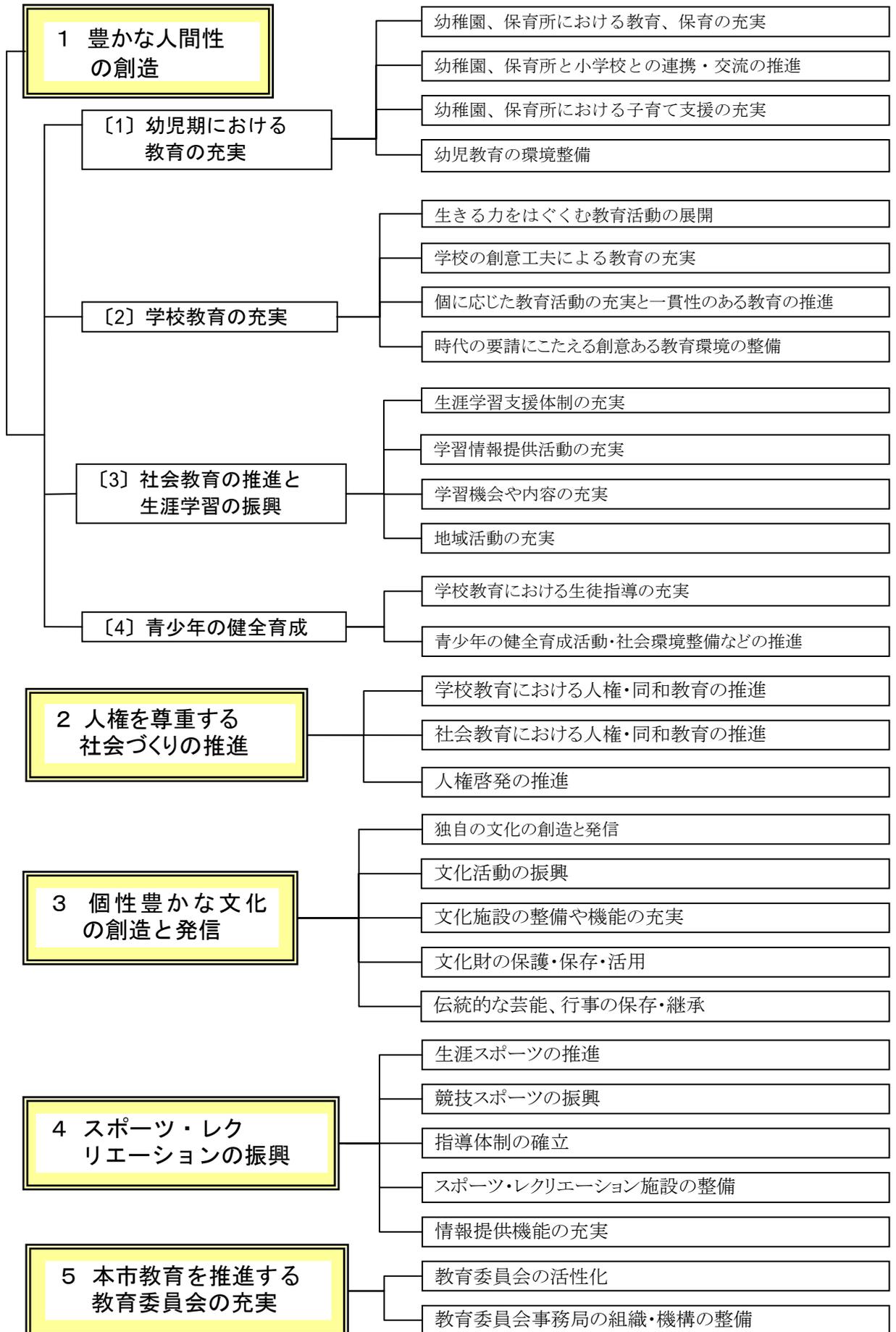
⑥ 各種会議・行事等・・・16回

(教育委員の活動について広く市民に理解していただけるよう、行事への積極的な参加を行いました)

概 要	時 期
中学校入学式、小学校入学式、幼稚園入園式	4月
大分県市町村教育委員会連合会総会、平成24年度大分県小・中学校長会合同総会	5月
第29回ムッチャン平和祭	8月
公開研究発表会	9月
河原内陶芸祭、公開研究発表会	10月
平成24年度「おおいた教育の日」推進大会、公開研究発表会	11月
大分市成人記念集会	1月
大分市「家庭の日」講演会	2月
小学校卒業式、中学校卒業式、幼稚園卒園式	3月

## 2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果

重点施策の体系（構成図）



**重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ① 幼児期における教育の充実**

**【1】 目標**

○人間形成の基礎を築く幼児期の重要性、本市の幼児教育の実情などを踏まえ、義務教育への円滑な接続を図る保育内容の充実、子育て支援策など、幼児教育環境の整備に努める。

**【2】 取組の進捗状況**

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>① 幼稚園、保育所における教育、保育の充実</b>						
「大分市立幼稚園 保育の手引き」の活用	活用の推進	策定	実施	評価・改善	各市立幼稚園において「大分市立幼稚園保育の手引き」を、幼児一人一人に応じた適切な指導の手引き書として活用し、園運営、教育内容の改善と充実を図った。	A
幼稚園教諭と保育士などとの合同研修機会の提供	研修会の開設講座数	9講座	9講座	10講座	幼稚園等が直面しているさまざまな教育課題を踏まえ学校教育相談研修や、特別支援教育研修、読み聞かせ研修など、9講座を合同研修として提供した。	A
市立幼稚園への「専任園長制」の導入	専任園長制導入園数	5園	9園	拡大	新たに、3名が専任園長に登用され、30園中9園が専任園長となり、園長の豊かな経験と実践を生かした効果的な園運営の推進に努めることができた。	A
市立幼稚園における特色ある園づくりの推進	地域との交流活動を取り入れた園の割合	91%	100%	100%	飼育・栽培活動や、茶道教室、昔の遊びなどの活動を取り入れるなど、全園において、地域の教育環境を生かした特色ある教育活動を実施した。	A

**<成果と課題(成果● 課題▲)>**

- 幼稚園教育研究会のテーマである「協同性を發揮する幼児の育ち」を保証する環境構成の在り方等について、「実践のポイント」を活用し、研修を深めることができた。
- 本市が主催する幼稚園教諭の資質向上を図るための研修会では、日常実践の中で生かせるような制作活動を取り入れた講座に、多くの教員の参加があり、「2学期からの保育にすぐにでも取り入れたい」などの感想が聞かれた。
- ▲保育士の参加は少なく、実施時期や研修内容等について検討する必要がある。
- 専任園長会等の場で、専任園長と隣接の小学校長が連携し設置した、校区幼保小連携推進協議会の取組事例についての研修を実施し、専任園長が在園している校区のうち新たに3校区で推進協議会等を設置した。
- 豊かな教育環境創造事業を活用し、地域の人的、物的な環境を生かした特色ある教育活動を行い、それらの活動が、各幼稚園の特色として根付いてきているといった趣旨の声が多くの学校評議員会等の場において出された。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

- 幼稚園教諭と保育士などとの合同研修では、保育所における研修内容等のニーズを把握するとともに、幼保小連携をテーマとした全市的な研修会を実施することなどにより、保育士の参加者数を増やす。
- 「地域との交流活動を取り入れた園の割合」は、指標の100%を既に達成しているが、今後とも継続していくとともに、交流活動の成果をどのように日常の保育へつなげるかといった交流内容の質の高まりを追求していくことが重要である。
- 上記、4つの具体的な施策等に主体的に取り組むことにより、生きる力の基礎を培う幼児期の教育の充実を図る。

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>② 幼稚園、保育所と小学校との連携・交流の推進</b>						
大分市幼保小連携推進会議の設置・活用	設置と活用	関係各課協議実施	活用	活用	24年9月に提出された「大分市幼保小連携推進会議」からの報告書を踏まえ、小学校長に、校区ごとの幼保小連携推進協議会等設置依頼を行うなど、各校区の実態に応じた幼保小連携の取組の推進を図った。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b>						
<p>●校区ごとの幼保小連携推進協議会が、報告書提出後、14の小校区で新たに設置され、合計21の小校区で協議会等設置され、幼保小連携に向けた取組が拡大している。</p> <p>●子育て支援課と連携し設置した大分市幼保小連携推進会議において、就学前の保護者向けパンフレット「小学校ってどんなところ」を企画、編集した。本市及び本市教育委員会では、このパンフレットを発行し、就学前の保護者や各幼児教育施設等へ配布した。</p>						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
<p>○今後は、大分市幼保小連携推進会議からの提言に沿って、幼児教育から小学校教育の円滑な接続に向けた取組を推進していく。その際、行政だけで取り組むのではなく、幼保小連携に関する具体的な取組やパンフレットの活用方法、内容に関する意見等について、各幼児教育施設や小学校、保護者等の意見を踏まえた連携の取組を推進していく必要がある、「(仮称)大分市幼保小連携推進協議会」等を設置する。</p>						
<b>③ 幼稚園、保育所における子育て支援の充実</b>						
市立幼稚園における「預かり保育」の充実	一斉の「預かり保育」における実施回数	週1回	週1回	週2回	平成23年度の週2回以上の預かり保育実施園は3園で、平成24年度は、6園と増えた。未実施の園についても、実施に向けた協議を行った。	B
私立幼稚園の預かり保育利用者に対する支援の充実	補助利用者数 (本事業は、年間をⅢ期に分けて実施しており、本指標は、Ⅰ期当たりの平均実利用者数である。)	448人	563人	600人	23年度実績を上回る利用者があり、保護者の経済的負担の軽減が図られた。	A
市立幼稚園「子育て支援事業」の推進	各園の参加者総数 (事業に参加した保護者、幼児の総数)	17,119人	26,903人	18,000人	各園での取組内容が充実し、参加者は、28年度指標を大きく上回った。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b>						
<p>▲幼稚園教育要領には、地域の実態や子どもの心身の負担、園の実情にも配慮する中で、預かり保育を実施することと示されている。こうした中、各園においては、随時の預かり保育を実施しているが、週2回全園児を対象とした預かり保育の実施までには至っていない。</p> <p>●私立幼稚園の預かり保育利用者に対する支援は、働きながらも子どもに幼児教育を受けさせたいと願う保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。</p> <p>●大分市幼稚園教育研究会の課題別班で、子育て支援事業の取組等に関する研究を行い、在園児と未就園児との互恵性のある交流、子育て支援課が編集した「大分市子育てマップ」の配布、保護者の子育ての悩みに関するアイデア募集コーナーの設置などの研究成果を、各園に還元し、内容を工夫することができた。</p>						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
<p>○預かり保育週2回未実施の幼稚園においては、他園の取組を参考にしたり、子育て支援活動との関連や、地域ボランティアの協力等について検討を行うなど、週2回実施に向けた協議を行う。</p> <p>○平成24年8月に「子ども・子育て関連三法」が成立し、平成27年度には、子ども・子育て支援に関する制度や給付が大きく変わることになる。本市においても、質の高い幼児期の学校教育の提供及び保育の量的拡大を図るため、国の動向と並行して本市の子ども・子育て支援に関する事業計画の策定に向け取り組む必要がある。こうした中、市立幼稚園における子育て支援についても、幼稚園における幼児期の学校教育のセンター的な役割を踏まえたうえで、本市における子ども・子育て支援に関する事業計画にどのように位置付けていくか、検討をすすめる。</p>						

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>④ 幼児教育の環境整備</b>						
大分市幼児教育振興計画の実施と検証 (Ⅰ期=21～25年度、Ⅱ期=26～30年度)	実施と検証	Ⅰ期実施	Ⅰ期実施	Ⅱ期実施	各幼児教育施設を対象に24年度における振興計画の具体的方策の取組状況調査を実施するとともに、Ⅰ期最終年度である25年度に向けた検証方法の検討を行った。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
<p>●平成24年8月に「子ども・子育て関連三法」が成立し、平成27年度には、子ども・子育て支援に関する制度や給付が大きく変わることになることから、平成24年10月から、子育て支援課と教育企画課で、作業部会を立ち上げ、本制度に関する情報収集や本市における本格施行までのスケジュール等の協議を重ねるなど、2課で連携を図ることができた。</p> <p>●幼保連携施設「のつはるこども園」における1年目の検証を踏まえ、「地域への情報発信」、「交流行事の見直し」、「幼保混合班による活動」について重点的に取り組み、幼稚園と保育所が同一敷地内にあるという教育環境を生かした活動の充実が図れた。</p> <p>▲次年度が、大分市幼児教育振興計画のⅠ期最終年度となるが、幼児教育施設をめぐる国の動向の変化に伴い、幼児教育振興計画のⅡ期に向けた見直しについて、その検討時期や検討委員会等の設置について慎重に進めていく必要がある。</p>						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
○Ⅱ期に向けた見直しに当たっては、平成27年度からの子ども・子育て支援に関する制度や給付が大きく変わることに伴い、本市の子ども・子育て支援事業計画との関連を考慮しながら進める。						

### 【3】 参考

#### 【市立幼稚園における子育て支援事業 ～参加者の声～】

- ・今日初めて、幼稚園へお邪魔しました。安全な環境の中、子どもたちものびのびと遊び、先生方の声かけ、子どもへのまなざしなど、学ぶことが多かったです。すばらしいですね。また来ます。
- ・トイレトレーニングについて何かよい方法はないかと困っていたが、「アイデアの木」に、参加していたお母さん方からたくさんの記入があり、うれしかったです。早速、試してみたいと思います。

#### 【校区幼保小連携推進協議会:小学校と私立幼稚園との教員同士の交流会 ～参加者の声～】

- ・できそうにないと思っていたことも、交流してみると意外と簡単に実行できることは多く、幼稚園、小学校の教員が子どもを中心において共通理解を深め、連携を進める基礎を作ることができた。
- ・「小学校の先生と話し合ったおかげで、保護者の質問にも自信を持って答えることができ、就学に向けて『安心の橋渡し』ができる気がします。」

#### 【校区幼保小連携推進協議会:小学校と私立幼稚園との子ども同士の交流会 ～交流後の幼児の姿から～】

- ・手拍子3つで、話を聞く姿勢をまねするようになった。
- ・早く入学したいというようになった。
- ・1年生からもらったペンダントを宝物にしている子どもが多い。
- ・授業を受けている姿を見て、園でもイスに座ろうとする姿が多くなった。
- ・「1年1組の1日」という本が大人気である。

**重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ② 学校教育の充実**

**【1】 目標**

○学校教育においては、確かな学力の向上、心の教育の充実、健やかな体の育成に取り組み、自ら学び自ら考える力などの生きる力を育成する教育の創造に努めるとともに、学校の教育力(「学校力」、教師の力量(「教師力」)を高め、子どもたちの「人間力」の育成をめざす。

○家庭、地域社会および関係機関との連携の強化を図りながら、開かれた学校、信頼される学校づくりに努めるとともに、時代の要請にこたえる創意ある教育環境の整備充実に努める。

**【2】 取組の進捗状況**

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>① 生きる力をはぐくむ教育活動の展開</b>						
大分っ子基礎学力アップ推進事業の実施	指導主事の学校要請訪問	年3回	年6.5回	年5回	指導主事等が年間を通して1校につき平均6回訪問し、学校経営や校内研究等について指導・助言を行った。	A
	市・県主催の学力検査で全国平均以上の教科の割合	37.5%	85.7%	70%以上	県及び市が小・中学生を対象に実施した学力検査において、実施した14教科のうち、12教科が全国平均以上であった。	A
国際理解教育の推進と充実	小学校5・6年へのALT等の派遣	年間10回	月1.5回	月2回	平成23年度にALTを増員し、小学校への派遣回数が増やすことができた。	B
情報教育の推進と充実	情報教育に係る研修講座数	9講座	20講座	20講座	関係諸機関等と連携し、電子黒板研修や情報モラル等、教職員のニーズに応じた講座を新設した。	A
環境教育の推進と充実	環境教育研修会の受講者割合	66.1%	66.7%	70%	大分大学と連携し体験型の研修を実施するなど内容を工夫するとともに校長会等を通じ市教委主催の研修を紹介することにより、教員の参加・受講を促した。	B
読書活動の充実	全校読書タイム実施校の割合	98%	99%	100%	図書館担当者等を対象に読書活動推進方法や研究推進校の実践などについての研修を実施することにより、学校の読書活動を推進した。	B
	児童一人当たりの年間貸出冊数	71冊	81.4冊	75冊	学校図書館支援員と図書館担当者等の連携の下、読書環境の整備などを進めたことにより、児童の読書意欲が向上し図書館の利用が増加している。	A
	生徒一人当たりの年間貸出冊数	7冊	9.4冊	12冊	学校図書館支援員と図書館担当者等の連携の下、読書環境の整備などを進めたことにより、生徒の読書意欲が向上し図書館の利用が増加している。	B
進路指導の充実	小・中学校における職場見学・体験実施校の割合	100%	100%	100%	キャリア教育を推進することにより、全小中学校において職場体験や職場見学を実施し、勤労観、職業観の育成を図った。	A

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
進路指導の充実	キャリア教育コーディネーターの中学校への派遣	78%	89%	100%	中学校での職業講話を実施する際に、商工労政課等と連携し、ヤングキャリアアドバイザー等の講師を派遣することにより職業意識の向上を図った。	B
子どもの健康や体力の増進	新体力テストで全国平均以上の種目の割合	19%	13%	60%以上	各校の「体力向上プラン」に基づき、各校児童生徒の体力の実態に応じた実践を行うとともに、「体力向上指導研修」や「体育主任研修」を開催し、新体力テストの正確な実施方法や授業改善について研修を行った。	C
喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の充実	「薬物乱用防止教室」の開催	59校	84校	全小中学校(87校)	保健所や市薬剤師会などの関係機関と連携のもと、「薬物乱用防止教室」に関する情報を提供するとともに、研修会において教室の重要性を再認識させることにより、開催校は増加し「薬物乱用教育の充実」は図られている。	A
食に関する指導の充実	地産地消の取組 〔学校給食の地元産食材の使用比率〕	42.4%	43.7%	45%	地産地消推進会議を毎月開催し、旬の地元産食材の計画的な使用を図っている。その結果、使用比率は目標に近づいており、学校給食を生きた教材として活用した「食に関する指導」の充実は図られている。	B

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●学力検査の結果分析及び改善策等指導資料の作成・ホームページへの掲載、研究推進校の成果の還元及び校内研究等への指導主事の積極的な派遣などにより、教員の授業力の向上、指導方法の工夫改善が図られつつあるとともに、標準学力検査において実施教科14教科中、12教科が全国平均を上回った。

▲中学校においては、生徒が図書館の本を借りる時間は、昼休み及び放課後が多い。しかしながら、放課後については、部活動等課後のさまざまな活動により生徒が図書館に行けない状況も見られる。読書環境の整備を充実するとともに時間の確保が課題である。

●体力向上プランに基づいた実践により、全国平均には及ばなかったものの前年度から8項目増えるなど改善が見られた。

▲新体力テストの分析でスピード・全身持久力・瞬発力が全国平均から低い傾向にある。

●「薬物乱用防止教室」の開催校84校のうち、複数回開催した学校が20校あり、各学校における取組みの充実が見られた。

▲「薬物乱用防止教室」の主たる講師は学校薬剤師や警察職員等であり、保健所等の関係機関との連携、活用を図るとともに、学校や家庭における喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実を図る必要がある。

●毎月19日前後の日を「おおいた産給(サンキュー)の日」と定め、地産地消を推進するとともに、学校給食を生きた教材として積極的に活用した食育の取組みが推進された。

▲学校給食における地元産食材の使用にあたっては、地域の生産力や供給力、価格と給食費の問題などがあり、更なる目標数値の上乗せは困難な状況である。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○読書活動の充実については、平成25年度から図書館支援員を6名増員し、児童生徒の読書環境の整備等を充実させ読書活動の一層の推進を目指す。

○新体力テストの分析から「体力向上プラン」を作成し、そのプランに基づいた実践を推進する。

○新体力テストの分析で重点的に指導が必要であるスピード・全身持久力・瞬発力を向上させるための専門的知識を有する指導者を小学校に派遣する「大分っ子体力アップわくわく事業」の実践を通して体力向上に努める。

**② 学校の創意工夫による教育の充実**

各種教育活動における地域の人材活用	学校教育支援員等の活用人数	740人	1224人	1000人	学校教育支援バンクの充実等により、各学校においてさまざまな教育活動に地域の人材の活用が進んだ。	A
地域に開かれた学校づくり、信頼される学校づくり	学校評議員研修会の開催日数	2回	2回	2回	学校評議員を対象に研修会を実施し、学校評議員の制度や役割について理解を図った。	A

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
地域に開かれた学校づくり、信頼される学校づくり	学校ホームページの更新	年3回	月7回	月2回	指導主事の全小中学校へのホームページに係る学校訪問相談や研修会や校長会等での呼びかけにより、各学校の更新回数が増加した。	A
	学校ホームページへのアクセス数	年間236,000回	年間335,115回	年間400,000回	指導主事の全小中学校へのホームページに係る学校訪問相談等により、各学校のホームページへのアクセス数が増加した。	B

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●「生き生き学習サポート事業」の活用により、地域と一体となった学習活動が推進され、外部講師による専門的な指導を通し、子どもの技術・技能や学習意欲の向上が図られた。  
 ●指導主事が全小中学校を訪問し、ホームページの更新方法や内容の充実について指導助言を積極的に実施するなどホームページ作成に係る相談体制の整備に努めたことにより、各学校の更新回数が大きく増加した。また、それに伴いアクセス数も増加しており、保護者や地域への情報発信の活性化が図られた。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○平成26年4月に開設される(仮称)大分市教育センターにおいて、学校ホームページについてよりきめ細かな相談体制の整備するとともに研修を充実させることにより、内容の充実を図る。

**③ 個に応じた教育活動の充実と一貫性のある教育の推進**

特別支援教育の充実	巡回教育相談の実施(年間)	6回	6回	10回	市報や市のホームページで広く呼びかけ、保護者を対象とした巡回教育相談を6回実施し	B
小中学校の一貫性のある教育の推進	小中一貫教育モデル中学校区の指定	1中学校区	7中学校区	10中学校区	7中学校区のモデル校において公開研究発表会を実施するとともに、2中学校区を研究実践校に指定し、大規模校における小中一貫教育の在り方について研究を開始した。	B

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●小中一貫教育校の賀来小中学校、連携型小中一貫教育モデル校の市内6中学校区(18校)において研究成果を全市に還元した。  
 また、市内全中学校区においても、教職員の合同研修会や児童生徒の合同行事を開催するなど、学校・地域の実情に応じた小中一貫教育の取組が進んだ。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○小中一貫教育については、今後、平成26年度に大規模の2中学校区、また、平成27年度に新たに2中学校区をモデル校に指定し、研究を推進するとともにモデル校区の取組みを全市的に広め、小中一貫教育の一層の充実を図る。  
 ○平成26年4月に開設する(仮称)大分市教育センターにおいて、いじめや不登校、特別支援教育等に係る相談・支援、指導・助言、研修等を通して、子ども・保護者・教職員を総合的に支援する。

**④ 時代の要請にこたえる創意ある教育環境の整備**

学校施設環境の整備充実	学校図書館の空調設備設置校の割合	69%	96%	100%	年次計画により、小学校5校に設置し96%となった。	A
	トイレの全面改修実施校数	年2校	年2校	年2校	衛生に対する意識及び生活環境の改善を図るため小・中学校各1校で実施した。	A
	特別教室の全面改修実施校数	年6教室	年3教室	年4教室	小学校の家庭科室1教室 中学校の調理室1教室と小学校の理科室1教室の計3教室を改修した。	B
	プールの改築実施校数	年0校	年2校	年1校	老朽化した小学校のプールを2校改築した。	A
	外壁及び屋上大規模改修実施校数	年3校	年4校	年4校	緊急性の高い校舎の外壁及び屋上大規模改修を小学校2校、中学校2校の計4校実施した。	A

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
学校施設環境の整備充実	環境に配慮した施設整備実施校の割合	18%	24%	28%	校舎の増改築に伴い、中水利用・人感センサー付照明設備等、省エネ・省資産型の施設整備を1校実施した。	A
学校施設の耐震化の推進	耐震化率	75%	86.4%	100%	耐震診断結果を基に作成した小中学校の耐震化計画により15棟の耐震化工事を実施し、86.4%となった。(幼稚園については平成24年度に耐震化を完了した。)	A
隣接校選択制の実施	実施方法の見直し	実施	実施	実施	学校と協議する中で、余裕教室の状況、児童生徒数の推計、学校運営や地域活動への影響などを考慮しながら、受入定員を見直した。	A
通学区域制度の弾力的運用	多様化するニーズに配慮した運用	実施	実施	実施	幼稚園・保育所などに小規模特認校制度のパフレットを新たに送付するなど、制度の周知に努めた。	A
市立小・中学校の適正配置	計画の推進	計画の検討開始	実施	実施	優先順位1の碩田中学校区では、地域協議会が8月に発足し、新設校の位置などについて協議を進めてきた。優先順位2や3の校区についても、状況に応じて適宜意見交換を行った。	B
教職員研修の充実	研修内容の充実(講座数)	105講座	108講座	120講座	日数の精選に努めるとともに、教職員の実態とニーズに応じた講座の開設、また、研修内容・方法等の工夫改善を行った。	B
子どもの読書活動の推進	学校図書館蔵書の充足率	129.6%	119.3%	110%	学校図書購入に係る計画的な予算化や適正な蔵書管理により、蔵書の充足率100%を昨年に引き続き維持できた。	A
奨学制度の充実	制度の見直し	実施	改善	実施	奨学生の貸与については6月末となっていたが、事務を見直すことにより、10日程度支給開始時期を早めた。	B

**<成果と課題(成果● 課題▲)>**

- 学校図書館の空調設備設置については、平成25年度には100%達成予定。
- トイレの全面改修については、年次指標達成済み。
- 特別教室の全面改修については、年次指標には達していないが、概ね計画通りである。
- プール改築については、年次指標達成済み。
- 外壁及び屋上大規模改修については、年次指標達成済み。
- 環境に配慮した施設整備実施について、改築校について整備済み。
- ▲耐震化率については、大分市立小中学校適正配置計画校について、平成28年度の目標達成が困難である。
- 隣接校選択制の実施に当たっては、小規模校の学校運営への影響なども考慮しながら定員設定を毎年見直すなど慎重な取組を進めている。児童生徒や保護者には理解が進んでいるものと考えている。
- ▲隣接校選択制の実施に当たっては、「地域の子は地域で守り育てる」という機運の醸成を図りながら、制度の運用の在り方も含め検討しなければならない。
- 市立小中学校の適正配置については、「大分市立小中学校適正配置基本計画」に沿って、優先順位を決めて対象6中学校区において協議を進めることとしている。その中で、優先順位1の碩田中学校区は、地域住民の代表者や保護者、学校関係者などで構成する地域協議会を設置し、協議を進めている。優先順位2や3の他の5中学校区についても、関係者との意見交換を適宜行っており、今後もより豊かな教育環境を創造することを目指して適正配置を推進する。
- ▲市立小中学校の適正配置については、対象校区ごとに適正配置の具体的な内容や方法などを明記した個別の実施計画を策定する必要があるが、その際には地域住民の意見を十分に聞く機会を設け、協議を重ねる中で合意形成を図ることが求められる。
- 教職員の指導力や資質・能力の向上等を目指し、本市の実情や教職員のニーズに応じた研修講座を開設するとともに、内容方法等の工夫改善を図ることにより、今年度の大分市教職員研修を複数回受講した教職員の割合が前年度より伸びた。
- ▲奨学生の必要とする時期に貸与開始できるように、制度の見直しを検討する。
- ▲奨学制度のうち、贈与型の高等学校修学支援奨学金については、所得制限を設けているところであるが、所得税法の改正により、年少扶養控除等が廃止となったことに伴い、本制度における所得制限の基準額を見直す必要がある。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

- 教育環境の整備の充実を目指し、引き続き指標達成を目指す。
- 教職員研修については、平成26年4月開設の(仮称)大分市教育センターにおいて、教職員のライフステージに応じた研修や教育指導に関する調査・研究等を通して、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに、本市における教育課題の解決を図る。
- 奨学制度を導入している他都市の状況などを参考に今後とも制度の充実を図る。

**【3】 参考**

「薬物乱用防止教室」の開催状況 (単位:校)

【平成24年度】	講師	小学校	中学校	計
外部講師	学校医等医師	1	0	1
	学校薬剤師等薬剤師	55	10	65
	警察職員・麻薬取締官等	25	9	34
	保健所職員	0	6	6
	その他	3	3	6
教 師	(自校・他校)	2	3	5
合 計		86	31	117

<調査学校数>  
小学校 60校、中学校 27校

注) 1. 開催学校数は、講師の職種別の延べ校数である。

「学校給食の地元産食材の使用比率」の推移 (単位:%)

	平成22年度	平成24年度
市内産	13.8	11.6
県内産	28.6	32.1
小 計	42.4	43.7
国内産	50.4	47.1
外国産	7.2	9.2
合 計	100.0	100.0

<調査施設数>  
単独調理場(小学校) 53施設  
共同調理場 2施設

○大分市立小中学校適正配置基本計画に係る実施時期

優先順位	適正配置の対象6中学校区	実施時期
1	碩田中学校区 < 荷揚町小学校、中島小学校、住吉小学校 >	平成28年度頃まで
2	神崎中学校区 < 木佐上小学校、こうざき小学校、大志生木小学校 >	平成30年度頃まで
	野津原中学校区 < 野津原東部小学校、野津原中部小学校、野津原西部小学校、今市小学校(休校中) >	
3	大分西中学校区 < 八幡小学校、神崎小学校 >	平成33年度頃まで
	戸次中学校区 < 戸次小学校、上戸次小学校 >	
	竹中中学校区 < 竹中小学校、竹中中学校 >	

**重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ③ 社会教育の推進と生涯学習の振興**

**【1】 目標**

○市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送るため、その生涯にわたって、あらゆる機会あらゆる場所において学習することができるよう、幼児期から高齢期までの各期に応じた魅力ある学習の場の提供に努め、市民の学習活動を促進する。

○自ら学び、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会の実現をめざす。

○地域の学習拠点、家庭教育の支援拠点、学校・家庭及び地域社会の連携拠点として、公民館など社会教育施設の機能を充実し、魅力ある多様な事業展開を図る。

**【2】 取組の進捗状況**

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>① 生涯学習支援体制の充実</b>						
読書活動支援の取組	校区公民館への図書配送業務	全校区館	全校区館	内容の充実	全校区公民館への図書配送業務を実施した。 H25年7月の新市民図書館のオープンに伴い、個人貸出冊数の限度が5冊から10冊になり、サービスが充実する。	B
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
▲全校区公民館への図書配送業務を実施したが、現館(コンパルホール)から新館(ホルトホール大分)への18万冊の図書の移管に向けての箱詰め作業による図書の貸出制限と図書館システムの変更による1ヶ月間の休館のため、校区公民館での貸出者数及び貸出冊数が23年度より減少した。 23年度 貸出者数 1,782人 貸出冊数 3,150冊 24年度 貸出者数 1,460人 貸出冊数 2,504冊						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
○今後も市民に周知し、新市民図書館の開館にあわせて図書資料の整備と充実に努め、利用者及び貸出冊数の増加を図る。また、「子どもの読書活動推進計画(第二次)」に基づき、保護者や子どもへの啓発活動を行い、様々な機会での子どもの読書活動を推進していく。						
<b>② 学習情報提供活動の充実</b>						
生涯学習に関する多様な学習情報の提供	「まなびのガイド」へのアクセス件数	69,497件	83,038件	8万件以上	社会教育施設や地域の最新情報の提供、動画配信の充実等により、指標より増加している。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
●「まなびのガイド」のアクセス数は、市民に提供する情報の内容や動画配信コンテンツの充実により、順調に伸びている。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
市民にさらなる学習機会の提供と内容の充実を図るため、生涯学習ポータルサイト「まなびのガイド」を新たにリニューアルし、25年3月29日より運用している。また、市民の学習意欲の向上のため、学習教材をデジタル映像化して提供する「まなびのデジタル資料館」を立ち上げ、市民の学習活動の支援を行う。						
<b>③ 学習機会や内容の充実</b>						
家庭教育を支援するための取組	「家庭教育学級」の開設数	71学級	78学級	90学級	自主的な市民サークルの数が減少し、23年度の81学級より3学級少ない78学級の開設であった。今後、幼稚園PTAでの自主サークル開設に向け取り組んでいく。	B

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
家庭教育を支援するための取組	地区公民館で開催する集会「子育ての集い」への参加者数	2,531人	1,288人	1,400人	参加者数が23年度の730人から558人増の1,288人となり、多くの方々が子育ての悩みの解決につながる学習に参加できた。今後、地域の子育て支援者と協力し、内容等について地域の実状やニーズに合うよう工夫することで、参加者の増加を図る。	B
家庭教育を支援するための取組	地区公民館で開催する「乳幼児家庭教育学級」への参加組数	339組	372組	400組	23年度の335組より37組の増加があり、保護者同士のネットワークづくりや子育ての相談ができる場となった。学級数は順調に増加しており、おおむね計画どおり進んでいる。	B
	小学校就学前の子どもをもつ保護者が学ぶ「子育て講演会」の開設数	60小学校 3保育・幼稚園	全小学校 9保育・幼稚園	全小学校 10保育・幼稚園	小学校については全小学校で実施できた。保育園・幼稚園については23年度の4回より5回増の9回の実施となった。今後、10保育園・幼稚園での開設に向け取り組んでいく。	A
	中学校にて思春期の子どもの心理や保護者のあり方を学ぶ「思春期講演会」の開催校数	100%	100%	100%	すべての中学校で1年生の保護者を対象に実施することができた。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b>						
<p>●家庭教育学級では、開設数は減少しているが地区公民館を中心に支援活動を行うことができ、各学級の充実した活動につながった。</p> <p>●平成22年度の子育ての集いでは、本来の主旨から離れたイベント型を行った公民館があり参加者数が跳ね上がった。平成23年度からは、主旨にそった内容のみの実施とした結果、参加者数は減少したが講話や親子活動だけでなく子育て中の親と地域の子育て支援者との交流もでき、仲間づくり、ネットワークづくりにつながった。</p> <p>●乳幼児家庭教育学級では、参加者のネットワークづくりや家庭で生かせる活動など、内容の充実を図ることができ参加者の増加につながった。</p> <p>●子育て講演会、思春期講演会では、多くの保護者が集まる機会を捉えて実施することができ、子育て支援につながる学習の提供ができた。</p>						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
<p>○各事業とも、チラシやメディア等による広報活動を行うとともに、地区公民館と連携し地域に密着したきめ細かい情報提供を行い、内容面の充実を図る。「家庭教育学級の開設」については、小中学校での開設は順調に進んでいるので、今後は幼稚園PTAで活動している保護者に自主サークルの立ち上げを積極的に呼びかけていく。また、あいさつに一言たして会話へと広げ、人と人の絆を深め、地域ぐるみの子育てとあいさつと笑顔があふれるまちづくりを進める「あいさつOITA+1運動」の取り組み強化及び広め隊の活動充実と広め隊相互の連携に努め、家庭教育支援を行っていく。</p>						
<b>④ 地域活動の充実</b>						
地域の子ども活動を支援する取組	「おおいたふれあい学びの広場」実施校区数	53校区	60校区	60校区	未実施であった3小学校区で新たに開設することができ、すべての小学校区で実施できた。	A
「生涯学習指導者登録制度」の拡充	登録者数	305人	357人	400人	23年度の334名より23名増え、357名の登録となった。H25年4月の「まなびのガイド」リニューアルにより、さらに効果的に市民に情報提供ができるようになったことから年間10数名程度の新規登録は十分期待できる。	B

### ＜成果と課題（成果● 課題▲）＞

●地域の子ども活動を支援する取組については、「おおいたふれあい学びの広場推進事業」としてすべての小学校区で地域の指導者の支援のもと、昔遊びや工作、読み聞かせ、料理、スポーツ等の体験活動を子どもたちに提供することができた。また、17小学校区において地域住民が主体となって実行委員会を組織し、企画・運営することができた。

▲生涯学習指導者登録制度については、登録者の活躍の場の創出が必要となってくる。

### ＜今後の取組の方向性及び改善策＞

○公民館が企画・運営する地区公民館主体型から地域の団体やグループ等が主体となって企画・運営する地域主体型への移行を図り、地域で子どもの体験活動を支える体制づくりを進める。

○生涯学習指導者登録制度の拡充については、地区公民館の事業等での講師や協力者としての活躍の場の創出に努め、生涯学習情報ポータルサイト「まなびのガイド」を活用し、広く市民に情報提供を行う。特に、平成25年度は小中学校への広報活動を強化し、学校での活用場の拡大を目指す。

### 【3】 参考

#### 地域活動の充実「地域の子ども活動を支援する取組」

（平成24年度 おおいたふれあい学びの広場推進事業 ～参加者の声から～）

- ◆ちぎり絵とお茶の体験で、地域のお年寄りの方からたくさんのお話を学びました。家に帰って、家族といっしょにやってみました。
- ◆音楽にあわせてステップを踏みながら準備体操をしました。その後のドッジビーがとても楽しかったです。おじいちゃん達がとてもうまかったことに驚きました。
- ◆きれいな七夕飾りができました。今までに作ったことのない提灯や網飾りもつくり、興味をもつことができました。うまくできたので家の人に見せたいと思います。
- ◆竹とんぼを作りました。小刀を使う時、とても怖かったけれど、地域の方々がとても丁寧に教えてくれたので安心して作ることができました。最後のあいさつで自然と大きな声が出ました。
- ◆地域の方といっしょにグランドゴルフをしました。けっこう思ったより簡単だったけど、ゲームではおばあちゃんに負けてしまいました。大きな声を出して一生懸命やれました。ルールを守って活動することは大切だとあらためて感じました。
- ◆収穫した稲わらでリース作りをしました。初めてだったので最初はうまくできなかったけれど、地域の方が丁寧に教えてくれたので、完成することができました。大切に育てたお米を余すところなく利用していたことを教わり、物を大切にすることを知りました。
- ◆河川敷でハゼ釣り大会をしました。あまりつれなかつたけれど、つれた時はとてもうれしかったです。自然の中で遊ぶことが、こんなにたのしいことだとは思ってなかったのもうたまたま外遊びをたくさんしたいです。

**重点施策 (1) 豊かな人間性の創造 ④ 青少年の健全育成**

**【1】 目標**

○「青少年自らの力による成長」と「青少年の成長を支える大人の体制づくり」を2本柱として、学校、家庭、地域社会、職場が青少年の健全育成に向けてそれぞれの役割を果たし、豊かな人間性や社会性を身につけた、新しい時代を切り拓く青少年の健全育成に努める。

**【2】 取組の進捗状況**

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>① 学校教育における生徒指導の充実</b>						
大分市小中学校生徒指導連絡会	内容の充実に向けた見直し(毎年度)	実施	実施	実施	全体研修会の場で問題行動への対応について、パワーポイントやフローチャート図を使用するなど、参加者が理解しやすいよう資料の工夫に努めた。	A
大分市小中学校教育相談担当者研修会	内容の充実に向けた見直し(毎年度)	実施	実施	実施	いじめ・不登校等の未然防止と適切な対応に向けた、研修の充実を図るとともに、教育相談体制の構築について協議した。	A
大分市いじめ・不登校等対策協議会	協議会の開催回数	3回	3回	3回	本市におけるいじめ・不登校等の状況の分析をし、問題点について検討をした。特に、「いじめ問題対応マニュアル」の活用方法について協議した。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
<p>●年4回の生徒指導連絡会を開催する中で、喫緊の問題について情報共有を図るとともに、具体的な取組や対応策について周知することができた。また、24年度は特に「大分市いじめ問題対応マニュアル」を活用したいじめ対策の研修や通学路の安全対策について研修を行うなど充実した取組ができた。</p> <p>●いじめの問題が全国的な社会問題となる中、いじめ未然防止と早期対応・早期解決に向けた学校の取組を支援するため、「大分市いじめ問題対応マニュアル」の見直しと改善について協議した。</p>						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
○いじめや不登校など生徒指導上の諸問題への対応については、実効性のある取組とする必要があるため、既に作成している「学校問題対応事例集Ⅰ」や「大分市いじめ問題対応マニュアル」を活用し、教員の指導力向上を図るとともに、25年度より事業を開始したスクールソーシャルワーカーの有効的な活用等も検討していきたい。						
<b>② 青少年の健全育成活動・社会環境整備などの推進</b>						
児童生徒のボランティア活動	活動への参加率	88.2%	90.5%	95%	道徳や特別活動等において、ボランティア活動の意義等についての教育を行い、児童会や生徒会活動を中心に、地域行事も含めた活動を取組むように指導した。	B
インターネット上のトラブル防止に向けた取組の推進	安全教室や研修会等の実施校数	中学校13校	全小中学校	全小中学校	全小学校の高学年と全中学校でパソコン・ケータイ等の安全教室を実施することができた。	A
大分市こどもの安全見守りボランティア推進事業	ボランティア数	27,048人	30,058人	30,000人	学校が中心となり、PTAや地域関係者に登録者の拡大を呼びかけた。	A
少年自然の家主催事業	定員に対する参加率	90%	82.1%	100%	市内全小中学校への周知と、市報やマスコミを通じて市民への広報に努めるとともに、事業内容の見直しと充実を図った結果、23年度実績を上回ることができた。	B

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

- 学校や地域において、ボランティア活動の参加を呼びかけた結果、児童生徒の参加率は前年度より上昇した。
- 全小中学校でパソコン・ケータイ等の安全教室を実施することができた。
- ▲ネット上のトラブルや被害への具体的な対応の仕方等について、教員が適切に指導できるよう、対策を講じる必要がある。
- 「子どもの安全見守りボランティア」については、学校が中心となり、PTAや地域関係者に登録者の拡大を呼びかけた結果、指標である30,000人を超えることができた。今後も、子どもの安全確保の観点から、取組を継続していきたい。
- 少年自然の家の主催事業については、23年度実績より2%上昇した。特に、うすき少年自然の家主催事業は、最後の年度ということもあり、内容の大きな見直しと、新しい企画を数多く取り入れたことが成果につながったと思われる。25年度からは、のつはる自然の家主催事業だけとなるが、実施する時期と内容の刷新を図りながら、より多くの市民が利用するように広報に努めていきたい。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○青少年の健全育成や社会環境整備については、学校だけでの取組に限界があることから、今後も校区や地区に設置されている青少年健全育成協議会など関係団体との緊密な連携を図りながら推進していく必要がある。

**【3】 参考**

**平成24年度 大分市立のつはる少年自然の家 主催事業実績**

月日	名称	募集要件	応募状況	参加実績	備考
4/28(土)	ピクニックDAY IN のつはる	20家族	26家族	26家族	
6/30(土)～7/1(日)	家族と遊ぼう県民の森 ラベンダー祭り	30家族	20家族	20家族	
7/21(土)～7/22(日)	ワイルド夏冒険2012	小5～中学生(50名)	34名	34名	
8/18(土)～8/19(日)	サイエンスキャンプ2012	小3～小6(40名)	45名	41名	キャンセル理由不明
9/29(土)	中秋の名月とだんご作りを楽しむ	どなたでも	41名	41名	
10/13(土)～10/14(日)	ミステリー大作戦	小4～中学生(50名)	30名	29名	キャンセル理由不明
10/13(土)～10/14(日)	秋のファミリーパーク	20家族	4家族	4家族	少年スポーツ団の大会等と重なり参加者減
12/22(土)	チャレンジ冬山登山	20家族	12家族	12家族	
1/26(土)～1/27(日)	キッズわくわく2013	小4～中学生(40名)	10名	8名	インフルエンザ流行のため参加者減

**平成24年度 大分市立うすき少年自然の家 主催事業実績**

月日	名称	募集要件	応募状況	参加実績	備考
5/19(土)～5/20(日)	うすきフレンドパーク～友と歩くナイトハイク～	小中学生(50名)	39名	33名	キャンセル5名 欠席1名
7/28(土)～7/29(日)	親子わいわいキャンプinうすき	20家族	55家族	29家族	抽選による
10/13(土)～10/14(日)	キッズアドベンチャー～国際交流とカヌーのつどい～	小中学生(50名)	61名	49名	抽選による
11/3(土)～11/4(日)	うすき竹宵物語2012	20家族	22名	21家族	キャンセル1家族
12/8(土)～12/9(日)	親子ふれあいお宝探偵団2012	20家族	32名	21家族	抽選による

## 重点施策 (2) 人権を尊重する社会づくりの推進

### 【1】目標

○「市民一人ひとりが互いに人権を尊重し合い、共に生きる喜びを実感できる地域社会の実現」をめざし、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人、HIV感染者・ハンセン病患者などをめぐる人権問題など、身のまわりにあるさまざまな人権問題の解決に向けて取り組む。

○学校や地域における人権教育を推進し、「差別をしない、させない、許さない」という意欲と実践力をもった市民の育成に努める。

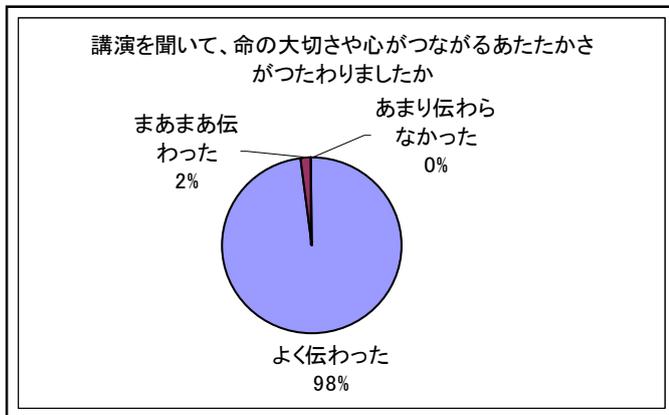
### 【2】取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>① 学校教育における人権・同和教育の推進</b>						
他の人の立場に立って考える想像力の育成	交流活動、体験活動の実施校	35校	40校	47校	体験活動の実施を校長会等を通して呼びかけているため、実施回数が増加した。	A
教職員の研修の充実	1時間以上の校内研修の回数	247回	249回	348回 (1校年4回)	校長会等を通じて、まとまった研修の実施を呼びかけており、わずかではあるが回数が増加している。	B
保護者への人権啓発事業	人権啓発講演会などの開催学校数	30校	37校	40校	各学校に開催を呼びかけるとともに、子育てに関わる人権問題等学校のニーズに応じた内容を実施したため開催回数が増加している。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
<p>●学校における人権・同和教育を推進し、子どもの人権に関する意識の高揚を図るためには、家庭との連携が不可欠であるため、保護者に対する人権講演会の回数が増加していることは大きな成果である。</p> <p>▲学校の教職員研修の充実のために、短時間で実施できる研修資料を発行している。全体の研修回数は増加傾向にあり、1時間以上の研修回数もわずかではあるが増加している。今後とも学校訪問等も行う中、研修回数の増加に努めていきたい。</p>						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
<p>○子どもの人権に関する意識を高めるためには、計画的、効果的な人権・同和教育の推進と教職員の人権意識の向上が重要である。教育活動においては、体験活動を取り入れる学校が増える等、効果的な人権・同和教育が行われるようになってきている。また、教職員の人権意識については、人権問題に対する認識を深める研修や子どもの指導に関する研修等の内容を提示し研修の必要性を訴え回数の増加を図る中、その向上をめざしたい。</p>						
<b>② 社会教育における人権・同和教育の推進</b>						
人権講演会	人権講演会(地区人権教育(尊重)推進協議会主催等)の参加人数	6,465人	6,949人	7,000人	講演会の対象者ごとに実態を考慮しながら、講師選定等を行っているため、参加者が増加している。	A
大分市人権・同和教育推進連絡協議会	加入団体数	88団体	90団体	105団体	積極的な参加呼びかけにより、加盟団体数が増加した。	B
地区人権教育(尊重)推進協議会	地区懇談会の参加者数	4,745人	5,961人	6,000人	積極的な広報と、内容の充実により参加者数が増加した。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
<p>●平成22年度末に人権協が全市を網羅して活動をはじめ2年が経過し、認知度も上がっている。また、それぞれの地域で実態を考えながら講師選定を行っているため、講演会の参加者が増加している。</p> <p>●少人数による懇談会は、自治会単位等で行っており、チラシの全戸配布や回覧板による広報活動や、内容も「それぞれの人が大切にされるまちづくり」等、身近な内容で実施しているため、参加者からの声も好意的なものも多く、参加者数も増加している。</p>						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
<p>○社会教育における人権・同和教育の推進については、地域課題やニーズに対応した学習機会を設定することが重要である。今後ともそれぞれの団体等の課題やニーズに応じた内容となるよう努め、参加者の増加につなげていきたい。</p>						

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>③ 人権啓発の推進</b>						
人権啓発研修会などの人権啓発事業	講師派遣回数	271回	272回	295回	自治会単位や校区単位など様々な規模の研修会等の開催を呼びかけるとともに、研修内容の充実に努めているため、講師派遣の要望が多くなってきている。	B
人権にかかわる視聴覚教材の充実	ビデオテープ、DVDの所蔵数	166本	176本	190本	使用場所や内容を吟味しながら効果的な教材を購入した。	A
大分市人権問題講師団の充実	講師数	26人	32人	35人	講演会等への案内を出し研修内容や方法の紹介に努めるとともに、講師登録を呼びかけたため、登録者数が増加している。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b> ●時宜に応じた話題や身近な話題、心情に訴える教材を取り入れたものとなるよう研修内容を工夫するとともに、それぞれの団体等の研修日時、時間の長短に柔軟に対応しているため、講師の派遣要望が多くなってきている。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○人権啓発については、啓発事業への参加者等に対する啓発だけでなく、全世帯に配布する啓発資料や市報を活用した啓発も行っている。平成22年度に実施した「人権・同和教育に関する市民意識調査報告書」において、人権・同和教育の解決のためには「その主体が市民自身にあることを認識させる必要がある」と指摘されている。このような認識は、一朝一夕にできるものではないことから、今後とも、あらゆる機会や場を活用した啓発の実施と内容の充実に努めなければならない。						

### 【3】 参考

◎南大分人権協「人権講演会」アンケート結果



#### 【感想】

- ・今、自分の生きる意味に迷っていたときでした。講師の話聞き自分というものを考え直したいと思います。今日お話を聴きとても感謝しています。
- ・講師の歌う曲がすんなり心の中に入ってきて感動しました。帰ったら宝物って呼んで抱きしめてあげます。
- ・いろいろな講演会の中で一番心に届いた話でした。アスペルガーの子を持ち、私自身もアスペルガーを大人になって気づき、子どもはいじめられた、一時不登校になったり。共感すること多い話でした。
- ・仕事上病院でがんばっている子どもたちと関わっています。私の思っていることを同じように思ってくれる方がいて、とてもうれしかったです。

◎西部人権協「人権教育講演会」【感想】

- ・「いのちのつなぎ方」本当に感動しました。今日、ここに生きていることを大切に。今親の介護に直面して考えさせられました。
- ・子どもに対する思いをもっと子どもに伝えようと思いました。今からでも遅くない！私のまわりの人たちに感謝と大切だという気持ちを伝えるべく努力していきます。素敵な講演会をありがとうございました。
- ・今、妊娠7ヶ月になります。42歳で初産です。迷いや不安はありましたが、命がけで生んで、命がけで育てていこうと改めて思いました。お話が聞けてよかったです。ありがとうございました。
- ・生の反対は「死ではなく生まれないこと」。人は、そこにいっただけで意味がある。とても心に響く言葉でした。食べることは生きること。生きることは食べること。食の大切さに改めて気づかされました。

## 重点施策 (3) 個性豊かな文化の創造と発信

### 【1】目標

○真の豊かさやゆとりや潤いのある地域社会の創造をめざし、子どもから大人までが優れた芸術文化に親しむ場や文化活動に対する学習機会を提供するための基盤づくりを推進し、芸術文化や施設利用に関する幅広い情報の提供に努める。

○地域に生活する人々のやすらぎや連帯感、郷土意識を高めるため、地域に根ざした歴史や伝統・文化を伝えるかけがえのない文化財の保護に努め、地域の様々な文化財情報を発信することにより、自然や歴史的景観と調和した個性的で魅力あふれるまちづくりを推進する。

### 【2】取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価	
		22年度	24年度	28年度			
<b>① 独自の文化の創造と発信</b>							
美術館	所蔵作品の公開率	87.6%	89.6%	93%	順調に推移している。	A	
	優れた美術を鑑賞する機会の提供	美術館施設利用者数 259,000人 H19～22 平均	593,452人	260,000人 H24～28 平均	集客力のある企画展や県芸術会館と協調した展覧会並びに様々なメディアの効果的活用などにより、多くの利用者を得た。	A	
	市民の自主的・創造的 文化活動の促進	アートプラザ施設 利用率	84%	88%	89%	高水準で推移している。	A
		アートプラザ利用 者数	171,026人	173,401人	175,000人	工夫を凝らした様々な講座展開により、徐々に利用者を増やしている。	A
	本市独自の文化の創造と発信	常設展出品作の 作品解説整備率	48.4%	72.9%	55%	展示替の都度、整備を行っており、目標を達成している。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b> ●優れた美術作品鑑賞の機会を提供するために、所蔵作品については、年4回の展示替えを計画的に実施することで公開率の向上を図りながら、出品作品の作品解説を充実させた。 ●ダンボールアート遊園地や山下清展など集客力のある特別展、県立芸術会館と連携した展覧会の開催などにより美術館施設利用者数は目標達成できた。 ▲今後とも少ない経費で最大の効果が期待できる企画展の実行委員会形式など、開催方法や運営方法など検討していかなければならない。 ●アートプラザについては、利用率、利用者数とも向上しており、指定管理者の経営努力が認められる。							
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○当館を訪れた入館者がリピーターとなって、再度来館したくなるような企画を常に実施できるよう、市民ニーズの把握や展覧会の情報収集を心がけていきたい。また、美術館の目玉作品となるような作品の収集など所蔵品の充実にも努めていかなければならない。 ○27年度開館する県立美術館との連携を視野に入れながらも、市美術館の独自性発揮や存在感の向上、身近な美術館としての親近感の醸成等、今やるべきことをソフト、ハード両面から検討していく。 ○展覧会開催に係る予算上の制約がますます厳しくなる中、企画展の共催や実行委員会方式など様々な開催方法を採用しているが、今後さらに民間の活力や発想を利用し活かせるノウハウを組織として蓄積していかなければならない。							
<b>② 文化活動の振興</b>							
美術館	文化活動団体やアーティストとの協働による事業の推進	外部講師数	9人	11人	11人	順調に推移している。	A

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**  
 ●上野の森アートフェスティバルや美術館で音楽会などを通じて、文化活動団体やアーティストとの協働による事業展開ができています。  
 ●講座はテーマの選定や講師の講座運営が功を奏し、参加希望者は多く常に好評を得ており、文化活動の振興という本来の目的を十分達成している。  
 ▲講師の招聘に予算上の限界があり、謝礼金の捻出が厳しい状況である。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**  
 ○外部講師の人数に関わりなく、市民に親しまれ、受け入れられる講座を行うことが重要であり、今後もテーマの選定には創意工夫を重ねていく。  
 ○研鑽を積んだ美術館ボランティアを講師として捉え、講座やワークショップの充実を図り活動の場を提供する。

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		

**③ 文化施設の整備や機能の充実**

美術館	資料の収集・保管、調査研究、教育普及、情報提供などの機能の充実	所蔵作品数	2,564点	2,878点	2,804点	28年度所蔵目標を達成した。	A
	文化活動を行う多くの市民が交流しあえる場の提供	芸術文化講座数	24講座	25講座	25講座	順調に推移している。	A

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**  
 ●資料の収集については、28年度までの所蔵目標を達成した。  
 ▲限られた予算で優れた作品を収集するための中長期的な視野に立った収集方針を考慮しながら、基金の活用など検討する必要がある。  
 ●講座・講演会等については25講座延べ83回を開催し、4,700人を超える参加者が得られ、目標は達成できている。また、夏の時期の音楽会の開催や月1回のボランティアの指導による講習等も行っており、市民が交流しあえる場の提供を行っている。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**  
 ○27年に県立美術館が開館するにあたり、当該施設との連携による、利用者の増加と芸術文化の理解者や文化の担い手育成などの相乗効果を発揮できる体制を整えながら、独自に魅力溢れる企画の設定による積極的な事業展開を図り、当館の存在価値を高めていく。

**④ 文化財の保護・保存・活用**

文化財・資料館	文化財の適正な保存・調査・収蔵・公開・活用	大友氏遺跡の保存・活用	整備基本計画策定	整備基本構想策定	史跡公園一部整備	整備基本計画の中間報告書(原案)を作成し、史跡公園は、平成28年度に一部着工予定。	A	
		絵本等パンフレットの作成	資料収集	1種類刊行	3種類刊行	大友氏遺跡のDVD解説書を刊行。大友宗麟副読本についてH25年度刊行に向け準備作業を行う。	A	
		横尾貝塚の保存・活用	整備基本計画検討	史跡指定地公有化準備	史跡公園一部整備	平成25年度の史跡指定地公有化に向けた準備作業を行う。	B	
		横尾貝塚市民ボランティアの充実	20人	42人	100人	縄文の森を活かした縄文自然体験ができる場所として、地元の学校や市民への周知が図られ、ボランティア数も順調に増加している。	A	
		文化財指定数	192件	195件	205件	年間2件の大分市指定文化財指定の目標に対し、1件の指定に留まった。	B	
		文化財に関する情報提供機能の充実	指定文化財・資料館収蔵資料の公開数	138件	170件	250件	平成28年度の指標に向け、順調に公開点数を増やしている。	A
		市民の学習・交流の場の提供	歴史資料館施設利用者数	42,457人	43,025人	45,000人	利用者数の増加が認められた。	A

具体的な施策		現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
			22年度	24年度	28年度		
資料館・文化財	市民の学習・交流の場の提供	歴史資料館 体験学習メニューの充実	11種類	15種類	18種類	体験学習メニューを増やすことができた。	A
		大友氏遺跡体験 学習館 体験学習メニューの充実	10種類	15種類	18種類	新規体験メニューの開発を実施している。	A
<p><b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b></p> <p>●大友氏遺跡整備基本計画の中間報告書(原案)の作成を行った  ●大友遺跡DVD解説書の刊行及び大友宗麟副読本の作成を行う  ●平成25年度の史跡指定地公有化に向けた準備作業を行う  ●横尾貝塚については市民ボランティアの活発な活動に支えられ、史跡の情報発信や指定地の清掃等が定期的に行われている。  ▲横尾貝塚史跡地に残る縄文の森が竹の繁茂などにより荒廃するおそれがあり、早急な対応が必要である。  ●無形民俗文化財を調査し、新たに指定することができた。  ●指定文化財及び資料館収蔵資料の公開が増加した  ●資料館の利用者数の増加が認められた  ▲新規利用者の開拓とリピーター増加を課題となった  ●体験学習メニューを増やすことができた。  ▲新規体験メニューの開発</p> <p><b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b></p> <p>○絵本等パンフレットの作成について、一般向け(大友氏遺跡DVD解説書)、小学生向け(大友宗麟副読本)を刊行し、次は、中高生向けの資料や絵本等の児童を対照としたパンフレット作成を目指す。</p>							
<b>⑤ 伝統的な芸能、行事の保存・継承</b>							
文化財	伝統芸能、行事などの保存・継承	伝統文化調査報告書の刊行	報告書 6冊刊行	報告書 13冊刊行	報告書 13冊刊行	平成24年度、2地区及び市内に伝わる民謡に関する記録保存ができた。	A
<p><b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b></p> <p>●当初予定であった13冊の報告書の刊行ができた。</p> <p><b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b></p> <p>○完成した報告書を市内全小中学校及び公民館・図書館に配布、資料の周知と活用をはかる。</p>							

### 【3】 参考

#### ◆美術館のアンケート意見抜粋

##### ・【展覧会について】

○東京の上野の美術館には年に2、3回行くが、大分市の美術館に来て、郷土の美術家がこんなに素晴らしいことに感激し、期待をしていたより満足した。

○いつもながら落ち着いた空間が良い。ゆっくり見れる。

○作品は素晴らしかった。(壁のピン跡のパテが気になった。)

○解説ビデオがあってまとめとしてとても良い。

○ボランティアガイドの説明が詳しく楽しい時間が過ごせた

○作家(郷土在住)に会えて良かった。

○大分旅行で立ち寄り素晴らしい旅になり、感動しました。

○ユニークなものをやって欲しい。音楽会も良かった。

○ダンボールアートはとても楽しかった。

○心が癒されました。真心からの対応ありがとうございました。

□竹工芸を置く位置は通常の机の高さにして欲しい。

□竹工芸の数が少ないと思う。

##### ・【館の運営等について】

○会場のスタッフの対応がとても良い感じでした(逆の意見もあり)。

□展示室をもう少し涼しくして欲しい。

□屋外に屋根つきのテーブル・ベンチがあっても良いのではないかな。

□自動販売機が不便。

##### ・【その他】

□公共交通機関の利用が不便。県外から来たので特にそう感じた。

◆歴史資料館のアンケート意見 抜粋

○満足の意見

- ・実に良かったです。実にきれいに整理されて感動しました。
- ・老若男女(不特定多数の人達)に対応するものとして非常に適切な展示だと思います。
- ・子どもが触れる事のできるコーナーもあり、親子ともよかったです。
- ・体験できるものが多く、楽しく鑑賞できました。
- ・資料館のお宝展の説明が分かり易くてよかった。
- ・ゆっくり静かに見学できました。受付の方の印象・感じが良かった。別府駅の観光案内所の対応にっかりしただけに、貴館で癒されました。ありがとうございました。
- ・今日は大勢で来館し、時間も少なくさっと見て帰ってしまいました。個人で来るとゆっくり鑑賞でき、大変勉強になります。親類を連れてまた来たいです。

○不満・要望

- ・大分の事が大変よく分かりました。文字が小さく見づらいところがありました。
- ・椅子が少ない。展示を見ていて疲れるので座りたい。
- ・フロアの椅子があまりにもやわらかく、掛けて立ち上がる時、高齢者には困難です。
- ・館内を案内する職員がいればもっと分かりやすい。
- ・せっかく楽しい体験や展示をしているのに、暑くて長く居られなかった。もっと来る人のことを考えてほしい。
- ・少量の音楽を流す、照明をもう少し明るくする。

※アンケートから把握できる満足度について

- ・展示内容などについて、ほとんどの方の満足度は非常に高かったが、館内が暑く、椅子が少ないなどといった設備面での意見が多く寄せられている。

## 重点施策 (4) スポーツ・レクリエーションの振興

### 【1】 目標

○市民の誰もが身近な所で気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、生涯にわたって健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう、「大分市スポーツ振興基本計画」に基づき、市民が主体的に取り組む環境づくり、多彩な活動機会の提供、指導体制の確立、情報提供機能の充実に努めるとともに、各種競技スポーツの競技力の向上を図る。

### 【2】 取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>① 生涯スポーツの推進</b>						
生涯スポーツの取組への支援	これまでのスポーツ教室の実施校区・地区数	28	32	33	各校区・地区に「中高年並びに青少年スポーツ教室」の開催を奨励した結果、新たに2校区・地区が開催した。	A
健康増進活動やスポーツ・レクリエーションの普及	多世代参加型行事への参加者数	27,041人	30,175人	29,000人	各校区・地区体育協会が運動会や球技大会等の多世代参加型の特色ある行事を開催することで、多くの地域住民がスポーツに親しむようになっている。	A
総合型地域スポーツクラブの展開の支援	設立クラブ数	9	12	15	活動中のクラブの情報交換や今後のクラブのあり方等を協議するための「総合型クラブ連絡協議会」を設置し、年3回開催した。また、各クラブの運営委員会や創設準備クラブの設立準備委員会等で指導・助言を行っている。さらに、市内5ブロックにおいて定期的な学習会を開催し、本年度新たに2クラブが設立した。	B
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b> ●生涯スポーツ社会の実現に向け、各校区・地区体育協会の特色ある行事の開催や総合型地域スポーツクラブによる地域住民のニーズにあった教室・イベントの開催により、多くの市民のスポーツに対する興味関心が高まっている。 ▲スポーツ教室の実施校区・地区やその活動内容が固定化されてきている。 ●各地区・校区で開催された運動会や球技大会等に、多くの市民が参加し、世代を超えた交流が行われ、スポーツを楽しむことができた。 ▲23の校区・地区体育協会が運動会等が実施されているが、参加者が固定化されてきており、地域全体への広がりが見られていない。 ●「大分市スポーツ振興基本計画」に基づき、市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じてスポーツを楽しむことのできる「総合型地域スポーツクラブ」の全市展開に向けて、創設準備・活動クラブが着実に増加している。 ▲総合型地域スポーツクラブの活動の推進には、財源・会員・拠点施設の確保等が課題である。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○市民一人ひとりが参加しやすい総合型地域スポーツクラブの育成をめざし、市内の各校区・地区体育協会、自治会や公民館との連携協力を図りつつ、総合型地域スポーツクラブの全市展開を推進する。 また、全市展開の考え方は、「各校区・地区体育協会」の地域に1つずつ育成することをめざしているが、各校区・地区の実情に応じて、近隣の校区・地区で協議して、共同で設立・育成することも視野に入れて取り組みを推進する。						

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>② 競技スポーツの振興</b>						
各種競技団体の活動支援	県民体育大会の優勝種目数 (平成23年度実施種目数42)	18	16	24	今年度も各競技の競技力向上と士気の高揚を図るため、計画的な練習計画を策定するよう助言するとともに強化練習会に向き激励した。優勝種目数は目標に及ばなかったが、総合得点は昨年度を8.5点上回り競技力は向上している。	B
選手の育成・強化と指導者の養成						
大学・企業などへのスポーツ振興の働きかけ						
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b> ●県民体育大会での優勝数は目標に及ばなかったが、競技団体の強化練習会により、競技力は着実に向上しており、33年連続通算58回目の総合優勝を飾った。 ▲他郡市においても各競技の強化を積極的に行っており、苦戦を強いられているので、競技力向上と新たな選手確保に向けた取り組みが必要である。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○強化練習会の継続と選手確保に向けた取組を推進する。						
<b>③ 指導体制の確立</b>						
指導者研修会などの充実	指導者研修会の参加者数	759人	1,046人	900人	各競技団体のニーズに対応した研修会を実施したところ、参加者が増加するとともに資質向上が図られた。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b> ●競技団体による積極的な指導者研修会により、指導者の資質向上が図られ、青少年の健全育成や競技力向上に反映されている。 ▲指導技術力の向上に向けた研修会のあり方について検討する必要がある。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○市民の誰もが良好にスポーツに親しめるように大分市スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者、中学校運動部活動指導者等を対象とした継続的な研修会の実施するとともに内容の充実を図る。						
<b>④ スポーツ・レクリエーション施設の整備</b>						
施設の整備	グラウンドの芝生化	4	4	6	芝生化したグラウンドは、安心安全面から維持管理費に多大な費用を要するが、利用者からは好評を得ている。	B
施設の効率的な利用促進	利用可能な民間所有の施設数	1	1	3	民間施設所有者と協議し、新たな掘り起こしを行っている。	B

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●グラウンドを芝生化することにより、利用者のケガの抑制やヒートアイランド現象の緩和などの効果が期待でき、このことにより利用者がのびのびと楽しく運動やスポーツを楽しむことができるようになる。

▲グラウンドの芝生化については、例年4月～6月の間で同時期に芝生養生期間に入るため制限を行い貸出を行っている。

その間、限られた他のグラウンドに利用者が集中し利用者にとっては使いづらくなっている。

●生涯スポーツ社会の高まりに伴い、利用可能な施設が不足していることから、民間所有施設を借り受け開放することで、その解消が図られる。

▲民間施設については、企業の福利厚生施設であることが前提となるため、あくまでも企業の社員とその家族の利用を優先的に考え、利用時間や貸出方法、手続きの簡素化について検討していく必要がある。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○既存の施設を新たに芝生化すれば、養生期間に最低1年間を要し貸出を止めないといけなくなるため、新たにグラウンドを整備する方法も含め検討する。

○小中学校のグラウンドは、体育の授業や運動会等の学習の場として、またサッカーや野球など社会体育の場として、使用頻度の高い校庭で芝生化が可能かどうか、初期投資をはじめ維持管理に係る経費や労力の問題、養生期間中の校庭の利用制限など、解決しなければならない課題も多いことから、引き続き調査・研究していく。

○H25年度は住友化学の福利厚生施設である体育館とテニスコートについて企業と協議を行う。

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		

**⑤ 情報提供機能の充実**

施設情報の提供や予約機能の充実	予約システムの登録者数	12,952	14,583	16,600	市報等を通じ新規登録者を増やすための方策を行った。	B
-----------------	-------------	--------	--------	--------	---------------------------	---

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●施設情報についてホームページや市報等で積極的に知らせたため、登録者数は概ね順調に推移している。

●現在の公共施設予約案内システムに対して市民からの要望は特に無い。

▲さらに公共施設案内予約システムの登録者を増やす広報が必要である。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○公共施設予約案内システム利用者等へのアンケート調査を行うとともに、登録者を増やすための広報の手法等について検討を行う。

## 重点施策 (5) 本市教育を推進する教育委員会の充実

### 【1】目標

教育委員には、地方公共団体における教育行政の責任ある担い手として、地域のニーズに応じた教育行政を主体的に企画し実行していただくことが、一層強く求められている。そこで、保護者や地域住民の期待に応える質の高い教育を実現していくために、教育委員会体制をより充実し、教育改革を推進する。

### 【2】取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>① 教育委員会の活性化</b>						
ホームページの充実	市民への教育委員会活動の「見える化」を図る	一部実施	実施	実施	教育委員会会議の開催予定や会議録を公開するとともに、教育委員の教育に対する思いや考え方について、市民の方へのメッセージを掲載することにした。	A
市長事務部局との連携強化	教育委員と市長との意見交換会の実施回数	1回	1回	2回	意見交換会を1回実施した。テーマは「地域に開かれ信頼される学校づくり」	B
教育委員の視察・研修への取組	学校、各種教育施設の視察及び研修会への参加回数	3回	3回	3回	大分県市町村教育委員会連合会総会(5月)、先進地視察(11月)、学校訪問(1月)	A
学校現場の現状把握及び情報収集	学校(園)長とのテーマを決めた教育懇談会の実施回数	1回	4回	4回	教育懇談会を4回実施した。テーマは「新任校長として」「学力向上について」「いじめの未然防止と対策について」「教職員の多忙化について」	A

#### <成果と課題(成果● 課題▲)>

- 市民にわかりやすいホームページの充実を図っている。
- 市長と意見交換を図り、教育に対する方向性を確認できた。
- ▲教育委員、市長ともに多忙なため、年1回の開催にとどまっている。
- 先進地視察等を行い、他都市の優れた取組を把握することが出来た。
- 毎回テーマを変えて懇談会に取組んでおり、それぞれについて学校現場の状況把握に努めている。
- ▲懇談会の時間がそれほど取れないため、細かいところや深い部分についての把握までは出来ていない。

#### <今後の取組の方向性及び改善策>

○学校(園)長との教育懇談会について、細かいところや深い部分についての把握が出来るよう、現在10名程度で行っている人数を少なくすること等で対応していきたい。

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	24年度の進捗状況	評価
		22年度	24年度	28年度		
<b>② 教育委員会事務局の組織・機構の整備</b>						
組織の機能や権限の弾力的運用への取組	組織・機構の見直し	一部実施	一部実施	実施	(仮称)大分市教育センターの開設及びそれに伴う組織の見直しについて検討を行っている。	B
行政改革の推進	行政改革推進プランや新NEXT大分構想等に基づく取組	一部実施	実施	実施	学校主事については、新たに5校において正規職員に替えて嘱託・臨時職員を配置し、小中学校併せて26校に非正規職員を配置した。 給食調理員については、24年度から現行基準を見直し、暫定的な配置基準によって職員配置を行った。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b>						
<p>●平成26年度の教育センター開設に合わせ、教育委員会全体の組織についてもよりよい形になるよう、検討を行っている。</p> <p>▲文化、スポーツ、生涯学習に関する事務所管の弾力的運用については、市長部局との連携を図っていく必要がある。</p> <p>●学校主事業務においては、平成24年度は5校について、正規職員から嘱託職員2名、臨時職員3名への配置替えを行った。この結果、小中学校併せて26校に正規職員に替えて非正規職員の配置を行い、効率的な業務執行体制とすることができた。また、給食調理員においては、暫定的な配置基準の実施により、正規職員106名、非正規職員92名の体制とした。</p>						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
<p>○組織・機構の見直しについて、市長部局との連携を図りながら、市民からわかりやすい組織体系となるよう、取組んでいきたい。また、平成25年度以降の新たな行政改革推進プランとして、学校主事についてはこれまでの正規職員60名体制から44名体制に変更し、取組んでいきたい。</p>						

### 3 平成24年度教育部長の仕事宣言達成状況

平成24年度 教育部長 報告書 (教育部長 玉衛隆見)

	取組項目	担当課名	達成状況の説明	評価
1	<p>【確かな学力の向上】</p> <p>学力検査を実施する全14教科すべての教科において、全国平均以上となることを目指します。</p> <p>《取組内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後や長期休業中の補充指導の充実</li> <li>・管理職による授業観察・指導や互見授業の充実</li> <li>・指導主事等による年間平均5回以上の訪問指導</li> </ul>	教育指導課	<p>24年度に実施した学力検査14教科の内、全国平均以上は12教科(85.7パーセント)であり、未達成でした。</p> <p>なお、各学校においては、放課後や長期休業中の補充指導を全校で実施しました。特に、すべての小学校で、地域の方々等の協力をいただきながら夏季休業中に5日間の補充指導を行いました。</p> <p>また、管理職による授業観察や教員が互いの授業を見合う互見授業も、全校で実施しました。</p> <p>さらに、各学校への指導主事等の訪問指導は、1校当たり年平均6.52回実施しました。</p> <p>こうした取り組みの結果、23年度の実績である75パーセント(12教科の内、9教科で全国平均以上)を上回ることができました。</p>	未達成
2	<p>【全市における小中一貫教育の推進】</p> <p>《取組内容》</p> <p>各中学校区で、これまでの次の3点の内容のさらなる充実に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の合同研修会や情報交換会等</li> <li>・児童生徒の交流行事等</li> <li>・家庭、地域への情報発信</li> </ul>	教育指導課	<p>教職員の合同研修会や情報交換会等は、1学期及び夏季休業中に全校で実施しました。</p> <p>また、小学校6年生の中学校体験入学や児童会と生徒会の交流活動など、児童生徒の交流行事等についても、全校で実施しました。</p> <p>さらに、全校において学校公開や学校だより等を通し、家庭や地域への情報発信に努めました。</p>	達成
3	<p>【全市における小中一貫教育の推進】</p> <p>《取組内容》</p> <p>今年度新たに、大規模な中学校区を実践研究校に指定し、大規模校における連携型小中一貫教育の在り方について研究します。</p>	教育指導課	<p>24年度新たに、大規模校である大在、鶴崎中学校区の7小中学校を連携型小中一貫教育実践研究校に指定し、研究に取り組んでいます。</p>	達成
4	<p>【道徳教育の充実】</p> <p>《取組内容》</p> <p>全小中学校において、「おおいた教育の日(11月1日)」の時期に、保護者や地域住民へ道徳の授業を公開します。</p>	教育指導課	<p>「おおいた教育の日(11月1日)」の取組として行う全市一斉オープンスクールデー(10月27日～11月11日の期間)の中で、全校において道徳の授業を公開しました。</p>	達成

	取組項目	担当課名	達成状況の説明	評価
5	<p>【道徳教育の充実】</p> <p>《取組内容》 全小中学校に指導主事を派遣し、道徳の授業研究を推進します。</p>	教育指導課	全校に指導主事を派遣し、道徳の授業研究を実施しました。	達成
6	<p>【防災教育の推進】</p> <p>《取組内容》 本市教育委員会作成の「大分市学校災害対策マニュアル」に基づき、各学校や地域の実情に即し、自校の防災計画を見直します。</p>	教育指導課	<p>5月末までに、全校において自校の防災計画を見直しました。</p> <p>なお、今後、東南海・南海地震に係る国や県の新たな被害想定が出された段階で「大分市学校災害対策マニュアル」等の改訂を行い、それに基づいて各学校の防災体制をさらに充実させる予定です。</p>	達成
7	<p>【防災教育の推進】</p> <p>《取組内容》 避難訓練を毎学期1回実施するなど、防災教育の充実に努めます。</p>	教育指導課	避難訓練については、全校において毎学期1回実施し、防災教育の充実に努めました。	達成
8	<p>【健やかな体の育成】</p> <p>平成24年度の新体カテストの144項目のうち72項目(50パーセント)の項目を全国平均以上にします。</p>	スポーツ・健康教育課	<p>24年度の新体カテストの結果は、各学校が作成した「体力向上プラン」に基いた実践、コーディネーショントレーニングを取り入れた研修、さらには明野中学校区をモデル地区とした大分元気っ子体カパワーアップ事業を行うなど、体力向上の取り組みを行いました。全国平均を上回った項目は19項目(13パーセント)で、目標を達成できませんでした。</p> <p>しかしながら全国平均には及ばないものの、向上した項目数は23年度の84項目(全144項目)から24年度は92項目と8項目増えるなど、改善傾向がみられます。</p> <p>今後は、これまでの取り組みにより各項目とも上昇傾向にあるため、引き続き実施するとともに、新たに、重点的に指導が必要である瞬発力や全身持久力を向上させるための専門的知識を有する指導者を小中学校に派遣し、体力向上の取り組みをさらに強化していきます。</p>	未達成
9	<p>【「(仮称)大分市アリーナ」構想の検討】</p> <p>(仮称)大分市アリーナ構想庁内検討プロジェクトチームにより、プロチームの試合や国際大会などの開催が可能な「(仮称)大分市アリーナ」構想の基本要件となる機能等の調査・検討を行います。</p>	スポーツ・健康教育課	<p>(仮称)大分市アリーナ構想検討プロジェクトチームにより、参考となる他市の類似施設を調査するとともに、検討委員会や作業部会を開催し、検討を行いました。</p> <p>24年度は、これまでの調査及び検討結果について、「中間報告」として取りまとめました。</p>	ほぼ達成

	取組項目	担当課名	達成状況の説明	評価
10	<p>【小中学校適正配置基本計画の実施に向けた取り組み】</p> <p>対象校区ごとに個別の実施計画を策定するに当たっては、優先順位を決めて協議を進めます。特に今年度については、優先順位1に位置付けている碩田中学校区において、地域住民の代表者や保護者、学校関係者などで構成する地域協議会等を設置し、十分な意見交換を行いながら、平成28年度頃までの適正配置の完了を目指して取り組みを進めます。</p> <p>《目標》 適正配置の実施時期 ＜優先順位1＞ 碩田中学校区 平成28年度頃まで ＜優先順位2＞ 神崎中学校区 平成30年度頃まで 野津原中学校区 平成30年度頃まで ＜優先順位3＞ 大分西中学校区 平成33年度頃まで 戸次中学校区 平成33年度頃まで 竹中中学校区 平成33年度頃まで</p>	教育企画課	<p>優先順位1に位置づけている碩田中学校区については、地域住民の代表者や保護者、学校関係者などで構成する地域協議会が平成24年8月に発足しました。</p> <p>その後、月1回程度の協議会を開催し、3校を統合し新設校を建設する方向性に沿って協議を進めています。また、防災や小中一貫教育に係る講演会の開催や、市内外の小中学校の視察を行っています。</p> <p>このような中、様々な観点から十分な意見交換を行いながら、新設校の位置について協議を重ねているところです。</p> <p>なお、優先順位2や3に位置づけている他の5中学校区につきましても、状況に応じて関係者との意見交換を実施しており、今後とも継続して取り組みを進めます。</p>	ほぼ達成
11	<p>【市立幼稚園が行う子育て支援活動の充実】</p> <p>子育てにかかわるボランティア団体やサークルと連携し、絵本の読み聞かせの実施回数を増やすことなどにより、市立幼稚園が行う子育て支援活動への参加者数の増加を図ります。</p> <p>《目標》参加者数 25,000人 《参考》平成23年度実績 23,524人 平成25年1月末実績 24,710人</p>	教育企画課	<p>各園において、体験入園や子育て相談等の活動を園児募集の時期に合わせて計画的に開催したほか、保護者の希望に応じて随時実施したことなどにより、子育て支援活動への参加者数は28,255人となり、目標を達成しました。</p>	達成
12	<p>【市立幼稚園保育料の未収金回収】</p> <p>電話催告や臨戸訪問等、早期の個別納付指導により自主納付の促進を図り、前年度を上回る収納率の達成を目指します。</p> <p>《目標》平成24年度 97.0パーセント 《参考》平成23年度 96.4パーセント</p>	教育企画課	<p>年間を通して、継続した催告を行うほか、24年度は特に、早い段階から未納者の状況把握に努め、電話や臨戸訪問による納付指導の徹底に取り組んだことにより、目標を0.4ポイント上回る収納率となり、目標を達成しました。</p> <p>《最終見込》 収納率 97.4パーセント</p>	達成

	取組項目	担当課名	達成状況の説明	評価
13	<p>【学校施設の耐震化の推進】</p> <p>小中学校については平成26年度までに、また、幼稚園については平成24年度までに、耐震化を完了させることを目標として、24年度は、小中学校校舎13棟、幼稚園園舎4棟の補強工事を行ないます。</p> <p>また、建替え等のため、5棟を解体または不使用とします。</p> <p>これにより、耐震化率を、小中学校86.4パーセント、幼稚園100パーセントを達成します。</p> <p>《小学校》 滝尾小・三佐小・鶴崎小・鴛野小 ・大在小・小佐井小・明野東小</p> <p>《中学校》 碩田中・滝尾中・原川中・大東中 ・判田中・植田西中</p> <p>《幼稚園》 森岡幼・戸次幼・敷戸幼・坂ノ市幼</p> <p>《解体または不使用となる5棟》 南大分小3棟、戸次小1棟、鶴崎小1棟</p>	学校施設課	<p>小中学校校舎13棟、幼稚園園舎4棟については、補強工事を完了しました。</p> <p>なお、建替え等のための解体または不使用となる5棟については、平成25年3月末に完了しました。</p> <p>これにより、耐震化率は、小中学校86.4パーセント、幼稚園100パーセントを達成しました。</p> <p>《解体となる2棟》 戸次小1棟、鶴崎小1棟</p> <p>《不使用となる3棟》 南大分小3棟(北校舎・西校舎・屋体)</p>	達成
14	<p>【「人権のまちづくり」の推進】</p> <p>各地区公民館や人権・同和教育(尊重)推進協議会等に積極的に人権懇談会、人権学習会などの開催を呼びかけ、講師として職員を積極的に派遣することにより、派遣回数を平成24年度は190回にします。</p> <p>《平成24年度目標》190回 《平成23年度実績》187回</p>	人権・同和教育課	<p>各地区公民館や人権・同和教育(尊重)推進協議会等に積極的に人権懇談会、人権学習会などの開催を呼びかけることで学習の場を設け、講師派遣回数は195回となり目標を達成しました。</p>	達成
15	<p>【「あいさつOITA+1運動」の全市展開】</p> <p>あいさつに一言たして会話へと広げ、人と人の絆を深め、地域ぐるみの子育てとあいさつと笑顔があふれるまちづくりを進める「あいさつOITA+1運動」の全市展開を目指し、この運動に取り組み、市民への啓発に協力いただく「あいさつOITA+1運動広め隊」の結成校区数の拡大を図ります。</p> <p>《平成24年度目標》 「あいさつOITA+1運動広め隊」の結成校区数 全小学校区(60校区)</p> <p>《平成23年度実績》 「あいさつOITA+1運動広め隊」の結成校区数 50校区</p>	生涯学習課	<p>「あいさつOITA+1運動広め隊」について、各校区や自治区などで説明を行い、全小学校区(60校区)で結成され、目標を達成しました。</p> <p>今後も地域の団体や事業所等に働きかけ、さらなる「広め隊」の拡大を図ります。</p> <p>《参考》 「あいさつOITA+1運動広め隊」登録数 315団体、78,196人</p>	達成

	取組項目	担当課名	達成状況の説明	評価
16	<p>【「あいさつOITA+1運動」の全市展開】</p> <p>小中学校と「あいさつOITA+1運動広め隊」が連携し、いっせいに「あいさつOITA+1運動」に取り組む日を設定し、全市展開を目指します。</p>	生涯学習課	<p>小中学校の2学期が始まる9月3日の朝、「広め隊」やPTA、地域の住民や企業のみなさんの協力のもと、「全市いっせい『あいさつOITA+1』大作戦」を実施しました。</p> <p>通学路では、小中学生が何人の友だちや地域の大人とあいさつができるかにチャレンジし、延べ508,506人(1人当たり12.8人)の人とあいさつを交わしました。</p> <p>また、大分駅周辺では高校生や企業のみなさんが通学する小中高校生のほか、通勤者に対してもあいさつを交わし、あいさつと笑顔のあふれる1日になりました。</p>	達成
17	<p>【インターネット上におけるトラブルの防止】</p> <p>市内全中学校で情報モラル教育やマナー教育を実施するとともに、今年度は市内全小学校高学年児童を対象に、インターネット利用における安全教室や安全講話等を実施します。</p>	青少年課	<p>小学校60校、中学校27校の計87校でインターネット上におけるトラブル防止に向けた情報モラル教育を実施し、目標を達成しました。</p>	達成
18	<p>【大友氏遺跡、大友宗麟公に関する情報の積極的な発信】</p> <p>大友氏遺跡や宗麟公の情報発信の拠点である大友氏遺跡体験学習館の機能の充実を図り、体験メニューや各種講座の拡充、学習環境の整備を行います。</p> <p>また、「市報」および、定期的なマスコミへの情報提供、案内のチラシを市内の全小中学校や公共施設に配布するなど、特に広報に力を注ぎ、大友氏遺跡体験学習館総利用者数10,000人を目指します。</p> <p>(平成23年度実績:7,427人)</p>	文化財課	<p>体験学習館では、歴史教室や体験工房などの講座回数を増やし、新たに小中学校対象の出前授業を開催するなど、講座の拡充を図るとともに、パソコンや図書を増設など学習環境の向上を図りました。</p> <p>こうした取り組みの結果、総利用者数は11,127人となり、目標を達成しました。</p>	達成
19	<p>【大分市歴史資料館 ボランティア指導者の育成および活動の推進】</p> <p>市民学芸員のスキルアップと技術力向上のための研修を年30回実施します。また、市民学芸員による来館者への展示解説、体験学習の指導を年20日以上実施します。</p>	文化財課 歴史資料館	<p>市民学芸員のスキルアップを目指し、展示品の説明、古文書解読・整理の研修を46回実施しました。また、市民学芸員による展示解説、及び体験学習の指導を43日行い、目標を達成しました。</p> <p>こうした取り組みにより、市民学芸員のスキルアップが図られ、来館者にとってより身近な立場からの展示解説が、好評を得ています。</p> <p>今後も、更なる市民との協働により、ひらかれた資料館運営をめざします。</p>	達成

	取組項目	担当課名	達成状況の説明	評価
20	<p>【美術館利用者数の拡大】</p> <p>市民の美的関心、知的好奇心を満たす、内外のさまざまな分野の優れた美術を紹介する特別展や収蔵品を紹介するコレクション展の開催、子ども向けや一般向けの各種講座の充実、美術館ボランティアや他都市の美術イベントとの連携、積極的・多角的な広報活動の展開等により、利用者数500,000人を目指しますとともに、ホスピタリティー(おもてなしの心)のさらなる向上を図ります。</p> <p>《平成20年度～平成23年度の平均 391,661人》</p>	美術振興課	<p>美術館利用者は593,452人で、目標を達成しました。</p> <p>「ダンボールアート遊園地」「山下清展」をはじめとする特別展観覧者は、展覧会目標を上回りました。</p> <p>特に、「高山辰雄展」は、初めて市と県が共同開催したことで、相乗効果を生み、県内外からも注目され多くの観覧者が来館されました。</p> <p>ホスピタリティー(おもてなしの心)の向上に努めるとともに、ポスター貼付場所増設や映画館上映前CM放映など新たな広報の取り組みを行い、収蔵品を紹介するコレクション展では、「サマー企画」「特集展示」など展示内容を充実させ、また、各種講座等は継続することで市民の認知度がアップし、入館者数の増加に寄与しました。</p>	達成

## 第 章 学識経験者による意見

別府大学短期大学部学長 金子 進之助 氏

本報告書は3部構成になっている。1部は教育委員会の活動および運営状況、2部は大分市教育ビジョンの達成状況、3部が教育部長の仕事宣言達成状況に関する報告である。

1. 教育委員会の活動については、各委員多忙の中を様々な行事に取り組み、敬意を表します。他県においては、教育委員会と首長との間に教育に関する意見の相違なども報道されています。大分市においては市長との意見交換の場を設定していることは、大いに評価できることですが、一方では独立した機関としての教育委員会と市長との意見交換の内容についても報告書の中に書き込まれているとよかったとも思われます。

また、最近、育児（虐待）や、学校における交友関係（いじめ）、生徒指導上の問題（教師の暴力）など、教育委員会の責務も重大なものがあると考えますが、これらについての基本的姿勢も表明されると、市民は安心できるのではないかと考えます。

2. 今回の点検評価の結果は、大分市の教育ビジョン点検評価結果においては、A評価98項目中64（65.3%）、B評価98項目中33（33.7%）、C評価98項目中1（1%）であり、順調な達成結果と考えられます。

また、昨年来行事参加者の感想等も取り入れています。このことは市民の評価および事業効果についても類推できるので、この記述は望ましいと考えます。

①ところで、自己評価がCとなった子どもの健康や体力の増進の項目ですが、測定された項目の内、瞬発力、スピード、持久力などの項目が標準より低かったとのことです。大分市内の児童生徒の体力の問題点を明らかにする意味では、このような自己評価（あえてCをつけた）をしたことは、今後の対策を立てる上では、意味のあることだと考えます。報告書の同じページ（p17）食育の項目もあるが、これらに関連づけて、今後の体力作り、健康作りの参考に出来ると思いますし、今後の健康教育の方略を考える上で、セクションを超えて、取り組むべき宿題を示しているとも考えます。健康教育は、子どもの時から、食育、体力作り、健康の確保を子どもたち自身が考え、自ら健康を保つ意識を持ち、実践するような教育が必要であり、保護者に対しても情報提供する必要があると考えます。医療経済学的にも子どもの時からの健康作りと、その教育が重要なことでありましょう。

②これまで教育界だけで考えてきた幼児期の教育の問題が、福祉畑（保育所）と連携して考えられるようになったことは喜ばしいことです。しかしながらせつかく企画された研修会に保育所側の出席が期待したよりも少ないという。長期休暇もなく、長時間保育、延長保育、乳児保育、病児保育などの諸条件や労働条件や待遇の問題もあって、歩調を合わせる事が難しいのかもしれませんが。また0歳から3歳も含む保育について共通のテーマ選びにも工夫がいるのかもしれませんが。保育所側のニーズや状況を聞き取って、前進されるようにお願いします。

1. 教育委員会の活動及び運営状況について

教育委員会の活動は、定例会 12 回、臨時会が 10 回実施され、計 87 件の審議が行われた。審議内容を見ると、事務局職員と教職員の人事、規則の制定・改廃、予算等の議案が多いが、同時に、教育に関する基本的な方針も 5 件協議されている。その内容は、平成 24 年度計画、当初予算要求、休校について、異動方針、学校教育方針である。教育委員会らしい議題である。一方で、「ビジョンの点検・評価」で出されてきた課題を正面から取り上げ、改善に向けた計画づくりを、教育委員会の会議でより積極的に取り上げ、着実に施策が前進していけるように取り組むことが、教育委員会の重要な役割である。前年度の課題を明示し、本年度や次年度、将来に向けて取っていく抜本的対策について十分に検討され、効果的な対策が打ち出されることが期待される。

2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価について

今年度の「点検及び評価」は、平成 24 年 3 月に策定された「大分市教育ビジョン―第Ⅱ期基本計画―」に基づいて行われている。ビジョンで打ち出された各施策の取組状況について、重点施策に関しては指標を定め、目標を立てて点検・評価した結果が報告されている。このような報告の性質上、「各項目については、進捗状況と A~D の評価」が詳細になされている。

全 98 項目の評価は、A 評価が 64 項目 (65.3%)、B 評価が 33 項目 (33.7%)、C 評価が 1 項目 (1.0%) となっている。平成 23 年度に比して A,C,D が減ったが、むしろ、昨年までの評価において、「評価基準の設定方法」がやや硬直化していた感もあり、今年度の評価は、概ね、妥当に付けられていると考えられる。

唯一、C が付いた項目は、【子どもの健康や体力の増進】である。新体力テストの分析で、スピード・全身持久力・瞬発力が全国平均から低い傾向にあるということである。対策として、各種研修と共に、テストの実施方法等についての研修も行われた。これはこれで評価できるが、一方で、このような体力をつけるためには、幼少期からの遊びが欠かせない。子どもの育つ環境を整備すると共に、「遊び」の必要性に対する保護者や市民全体の意識を育てることが重要であろう。この点は、社会教育や青少年の健全育成、更に、スポーツ・レクリエーションの振興にも結び付くものである。これらは、総体的に B 評価の割合が高い事項でもあった。各種施策は単独で存在するものではなく、幼小児期からの子育てやその支援体制の整備状況と関連した問題である。子育て課題に着目し、抜本的対策に力を入れると相乗効果が生まれると期待される。

【子どもの健康や体力の増進】の項に関しては、体力面での評価はなされているが、健康の側面が評価にどのように反映されているのかが見えない。今後、体力だけでなく、保健の側面も評価内容に取り上げる必要がある。学校保健は、次世代を担う子どもの健康を支えるものであり、非常に重要な側面である。近年、地域保健との連携が、一層重要になっている分野でもある。また、医療の進歩と共に、医療的配慮（内服や注射、アレルギー等の特別な配慮）が必要な児が増加している。入学時に、地域保健との連携も重要になってきており、今後、評価項目としても積極的に取り入れていく必要がある。この点に関しては、学校における健康の専門家としての養護教諭に、医療面の素養も豊かに持って欲しいところである。

昨年 C 評価であった、【市立幼稚園における「預かり保育」の充実】は、本年度は B 評価となった。改善に努力されたからであろうが、依然として待機児童の問題は深刻である。日本全体が、女性の就労・保育の確保を課題に挙げる中、大分市でも保育園へのニーズは大変大きい。その中で市立幼稚園が存続し、かつ、預かり保育すら進まないことは、大きな問題だと言えるし、大分市が全国に先駆けて取り組んでも良かったテーマでもあり、残念である。

改めて全体を見渡すと、評価の指標としては、プロセス評価の項目が圧倒的に多い。教育に関することは、どれだけ子どもたちが健全に育成されたか、即ち、アウトカム評価が重要である。今後、点検・評価の実施方法・目標としても、ぜひ、アウトカム評価を考慮して頂きたい。

○国立大学法人大分大学理事・副学長 山崎 清男 氏

### 1. 教育委員会の活動及び運営状況について

教育委員会の活動は定例会議が12回、臨時会議が10回開催され87件の審議が行われている。開催回数及び審議件数から見ると、かなり活発な委員会活動が行われていると思われる。また教育委員会会議のほか、教育委員の資質向上のための研修会5回、市長との意見交換や教育懇談会参加が5回、さらに学校訪問及び2市4箇所先進地視察等も実施され、意欲的な教育委員活動に取り組んでいる点は評価すべきである。今後これらの活動の結果から得られた点（継続すべき事項と改善すべき事項等の整理、学校訪問や先進地視察等から得られた知見の活用など）を明確にし、一層の教育委員会の活性化を図ることが重要であるといえよう。このような視点は、教育委員会の形骸化を克服することにも繋がると思われる。

### 2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価について

目標と進捗状況に対する平成24年度の個別項目の評価は実績を踏まえ、また28年度指標に対してどのような進捗状況にあるのか等の観点から細かく行われている。各項目に対し評価結果をA、B、Cで表しているが、なぜ「この項目」がA評価であるのか、あるいはB評価であるのかということが24年度の実績から丁寧に説明されている。換言すれば、評価結果に対する、いわゆる「エビデンス」がきちんと示されているといえよう。今後この点を踏まえ、さらに「信頼性」のある評価をお願いしたい。評価項目の多くはA評価である（60%以上）。その意味では、大分市教育委員会の掲げる「大分市教育ビジョン」のねらいはそれなりに達成されていると考えられる。B評価の項目もあるが、B評価自体は決して「悪い」評価ではない。しかしなぜB評価なのかということの検証を丁寧に行っていただき、改善すべき点を明らかにされたい。C評価（「子どもの健康や体力の増進」）が1項目存在するが、上述した点からの分析と改善を行い、その結果を早急に施策化されることが期待される。

ところで企業経営論等は、評価を実施回数やパーセントなどの数字で表すことを求める。もちろんこのような評価方法は、「客観性」を示すうえでは否定されるべきではない。しかし教育に関する評価の場合、点数や実施率のみによる評価は、時としてリアルな生きた評価とかけ離れてしまうこともあるといえよう。今後このようなことに留意しつつ、評価方法の改善が一層考えられねばならないと思われる。

### 3. 教育部長の仕事宣言達成状況について

「教育部長の仕事宣言」は、大分市教育ビジョンの実質的進捗状況を示そうとするものと思われる。特に年度の重点取組項目の達成度を説明し評価を行っている。達成状況の説明もわかりやすく、市民に教育施策の進捗状況を理解していただくという視点からは有効であると考えられる。ほとんどの重点項目が「達成」という評価を受けているが、「確かな学力向上」のみ、「未達成」である。未達成の理由がきちんと述べられているが、特に学力向上を評価する場合、達成基準をどこに置くかということが極めて重要になるといえよう。達成基準の妥当性やその可能性を、さらに進んで検討することが求められる。なお「大分市教育ビジョン」と、年度ごとの重点取組項目との関係をきちんと整理することも必要と思われる。

最後に平成24年度の「教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価」に関する作業は丁寧に行為れ、問題点等もわかりやすく整理されている。この作業を担当された事務局の方々に敬意を表したい。